

羣書一覽

三

Review
of
Reading-Books

<p> <i>Case,</i> <i>Shelf,</i> <i>Book,</i> </p>	<p> <i>Part of the</i> <i>ADDISON ALEXANDER LIBRARY,</i> <i>which was presented by</i> <i>Messrs. R. L. AND A. STUART.</i> </p>
<p> <i>Theological Seminary.</i> <i>PRINCETON, N. J.</i> </p>	

115-5

Jahome



*Presented by a friend
March 23^d 1843.*

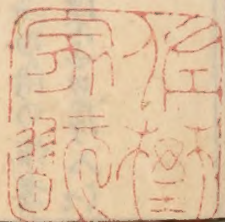
群書一覽卷之三

物語類

竹取物語

二卷

竹取の物語は、いづれの竹にや、はるかにてきまづ、めりおちし原氏、いづる
大女、かゝるく登大や、いづれけをけり、いづる竹、取れり、いづる
れ、いづる萬葉集第十六卷、竹取の翁九箇の神女、いづる、いづる
いづる内外、いづる、いづる宝樓閣經、不空三藏譯、弘法大師將來第一、いづる佛
言、乃住古昔、至乃有三人、仙人、いづる時、彼仙人、得法歡喜、心生踊躍、於其
住處、便捨身命、所捨身、猶如生酥、消融入地、即於其處、而生、竹、金
為、莖、葉、七宝、為、根、其竹、生長、十月、則自剖裂、衣各於竹内、生、童



竹取物語抄

二卷

小山儀

和漢の書は、ハナハタ入に昌喜テ附す。卷末より、ハナハタ作者
原順とあり、ハナハタ後年、ハナハタ大内相、八月、ハナハタ惟寛漢字の序入に
昌喜、これの序あり、天明四年刊行す。

字津保物語

二十卷 二十本

刊^{カニ}カウ^{カウ}せや、中^{ナカ}居^イ道^{ドウ}長^{チヤウ}きふ^{キフ}す^スま^マら^ラに^ニほ^ホめ^メれ^レ今^{イマ}世^セの^ノ秘^ヒ宝^{ホウ}ハ^ハ卷^{マキ}の^ノ名^ナ

た^タづ^ヅら^ラう^ウら^ラめ^メた^タき^キも^モあ^アら^ラう^ウい^イつ^ツげ^ゲぶ^ブー^ーこ^コう^ウい^イん^ン西^{セイ}や^ヤん^ン麻^マ呂^ロふ^フ

も^モこ^コそ^ソか^カら^ラう^ウく^ク西^{セイ}ー^ーう^ウー^ーち^チ才^{サイ}ハ

才^{サイ}一^一 俊^{トシタカ}薩^{サツ}

才^{サイ}三^三 並^{ナミ}た^タく^クう^ウ

才^{サイ}五^五 暖^{ナン}戦^{セン}の^ノ院^{イン}

才^{サイ}七^七 吹^{フイ}上^{カミ}の^ノ下^{カミ}

才^{サイ}九^九 菊^{キク}の^ノ宴^{エン}

才^{サイ}十一^{十一} 初^{ハツ}秋^{シュ}一名^{一名}も^モも^モう^ウれ^レ名^ナ日^{ニチ} 一名^{一名}す^スま^マい^イの^ノ節^{セツ}會^{カイ}

才^{サイ}十二^{十二} た^タの^ノの^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}十四^{十四} 花^{ハナ}の^ノし^シも^モ中^{ナカ}

才^{サイ}十六^{十六} 梅^{ウメ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}十八^{十八} 水^{ミヅ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}二十^{二十} 國^{クニ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}二^二 並^{ナミ}花^{ハナ}の^ノ君^{キミ}

才^{サイ}四^四 梅^{ウメ}の^ノあ^アし^シも^モ 一名^{一名}春^{ハル}日^{ニチ}も^モて

才^{サイ}六^六 吹^{フイ}上^{カミ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}八^八 水^{ミヅ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}十^十 あ^アて^テも^モ

才^{サイ}十三^{十三} 藏^{サウ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}十五^{十五} 花^{ハナ}の^ノあ^アし^シも^モ下^{カミ}

才^{サイ}十七^{十七} 梅^{ウメ}の^ノあ^アし^シも^モ

才^{サイ}十九^{十九} 水^{ミヅ}の^ノあ^アし^シも^モ

羊子一

物語のしらべの板がき

宇津保物語俊蔭カキ卷 三卷

別刻のうへと巻の中の物語をとりほめてけふ金糸をきく人も
是をいふやれどもともをきくもの○うへは保氏後承のきくけの
おきれりいほのいほのきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく
けをきくもの○うへは保氏後承のきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく

濱松中納言物語 写本 四卷

作者つぎのうへと巻の中の物語をとりほめてけふ金糸をきく人も
是をいふやれどもともをきくもの○うへは保氏後承のきくけの
おきれりいほのいほのきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく
けをきくもの○うへは保氏後承のきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく

目録のうへと巻の中の物語をとりほめてけふ金糸をきく人も

是をいふやれどもともをきくもの○うへは保氏後承のきくけの
おきれりいほのいほのきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく
けをきくもの○うへは保氏後承のきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく

うへと巻の中の物語をとりほめてけふ金糸をきく人も

是をいふやれどもともをきくもの○うへは保氏後承のきくけの
おきれりいほのいほのきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく
けをきくもの○うへは保氏後承のきくけをきくもの○うへは保氏後承のきく

うへと巻の中の物語をとりほめてけふ金糸をきく人も

伊勢物語

二卷

[illegible]

いせなりといふもはや世とすしやまかなうもまためい
それむしう伊勢人のいふもせういふもあつてあつて
もつと西りよ人の山家集もいせんいふもあつてあつて
もつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
めいいづとまゐるもつとつとつとつとつとつとつと

[illegible]

の次序^{ジジヨ}はなづからいさうく僻^{キョクト}ずなりぬ。いはゞけり。これハ
いざしよふもてせいのうらなひかりきそいさまいざしてこ
ともしあゝ堀川なる百首をうへにも明長明々たる。

いせんひきくはちゅう甲斐はゆけさうの

二西り片はも

いさむをいさむるうづる雲の毎るわしてあやうかれ
エガコト
カガ

も。と。う。ろ。ふ。い。や。は。餅。の。こ。ろ。に。お。ま。か。り。考。へ。つ。て。昔。田。執。方。の。

ふいふい親子えまのふいふい掠め

今日昔物作よりふりて今あつたの漢は^{コトワザ}_{カマシテ}ふりてゐるひな

いせのりやみの森の奸サマツふりやう

すまゝのやんかひもやんかん。○古くは伊勢

乃三才男女の事とくたゞ萬象バンシヤウとてひとめ合しらせと

和合の心を以て、
一に心を以て、

○定家「自筆の一本、御田所しの巻うち」
今更セテ

ずづーずづー〇定家づ自筆の一本 新田やしの巻うちろろろ 今^{セナ}々^{ニナ}

すくすくすく○定家（定家）自筆の一本
（定家）の巻うち（巻うち）を合（合）

之くすの定憲自筆の一紙

...

—

本取用捨也元可備證本ニ 血代以テ狩使事ヲ為端トと本出来ル未代之人今案也ニ
更ニ可用之此物語古人之説ヲ同或稱シ中將之自書ト或稱シ伊勢之華
作就テ彼此有書ヲ落事等上古之人強ク不可尋ハ其作者ヲ只可說ハ詞花言
葉而已ニ 部尚書判ニ ○一華堂切臨ニ武田ノのハ百代はハつ
院の勅ヲわたりテ百代は奈良院の代ニ能ハお自由山修理大夫入道徳
胤ヲ称名院殿并ニ百里山ヲお内府所取次ニくハ冷ニ其ハ一ハのハ時
もハ失ニ越ニおの倉入ニ宗順ノ求ニく若狭の武田伊豆入道紹真
これハ叔父ノ故ニ世に武田ノ中ノ早ニ其ハなと好修ハ大夫長慶と
是とハ付ニ彼人ノ後ニねニねニ天正ニ十六ニ仲ノわニあニ求ニ出ニ
細川玄吉ノ今ニみニす定家自筆ノのハ今ニせニあニハニのハし
○みニ天福ノの中ハ百代はハ馬ノ依ニ西ニ條道遠院ノ所ノ鎮ニと
宗長ノ使ニくハ駿ノ行ノ心ニ今ニ川氏親ノへニつニはニあニ時ニ天隆ノのハうニ
道遠院ノ駿ノ行ノつニはニあニ時ニ天隆ノのハうニ
道遠院ノ駿ノ行ノつニはニあニ時ニ天隆ノのハうニ

和書部三

群書一覽

舊本伊勢物語

三卷

綾太^{アヤタ}淫^{イナ}校訂^{ギョウテイ}のどろき^{カワラシ}馬^{ウマ}ぞとく人のもちりしやのろあぢゆらん
さうじくふいねづほひいちぢやうしんしんめい^{オホ}
六條^{ロクジョウ}かゝるにせやくれん考^{カウ}てんく上あやしよじ〇老^{カウイ}美^ミ
上下^{ジョウゲ}再^{サエ}附^{ツケ}すこれ人^{ヒト}諸^{モロ}中^{ナカ}を六條^{ロクジョウ}なかぞらへていそも
もれづものいこづゝらつめ何^{ナニ}のれがいにめられけり^ハ取^{トル}えそく
考^{カウ}へりぐさもののいそよりめわぬ^メ金^{キン}比^ヒ雄^{ユウ}杜^ツ多^タ序^コ同^{ドウ}六^{ロク}七^シ

年書一卷 和書部三

のせいのりかゝの傳 業平のゆかりの傳よりなり 卷末に年代

実録の業平の傳 定家・信實の奥書なり ○山あり花園院長祿

四の成りより切ら集りあり ○寛文十二年三月刊

伊勢物語宗祇抄

一卷 二本 宗祇法師

伊勢物語名宗祇山口記 一巻 奥書あり 此は母著也 伝は初防州山口

より 一巻 何の傳あり初防州の奥書あり 奥書のありとれは書より

より 寛文八年四月より城春意より字の序なり

伊勢物語

惟清抄

写本

一卷

舟橋宗元

外記舟橋環翠軒宗元西と條道遙はなり 相傳の伝はなり

伊勢物語

伊勢物語

肖聞抄

写本

二卷

釋月柏

乃木系院の所宇牡丹花肖聞抄よりなり 同書のともあり

以てはなり 肖聞抄よりなり

伊勢物語闕疑抄

五卷

細川退齋

中院也足軒素然の書より此闕疑抄ハ幽希老新作の而て上旨趣奥土

より慶長二年孟冬の跋より此お徳のおとよみあけりしより

が筆更れよりおとよみくさくさより八条又海後より

べきよりかこも信よりおとよみくさくさより八条又海後より

ろよりもあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

長岡よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

惟はあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

くよりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

宗養紹よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

は等け法抄ありあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

の名よりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

のよりあきよりおとよみくさくさより八条又海後より

伊勢物語集註

十二卷 一華堂切臨

和書部三

ハイニヤス

二卷五本
北村季吟

いふの候

拾穂ハ季吟の軒号シ

四卷
沙门契冲

62

二条后ミナモトのひきで彼もねれ人のありなめけしやとせりしに批
 把殿ヒツタ承平スミタハハはひきくた大臣といかりたすを誹諧ヒイゲもろじ
 のよりひきり作者は左大臣といひこれに准スりてうてし
 后位コウイは復フタしなまぬほハ后キタといは勅令チヨウレイは遠トウ宵ヨイすはハや
 みふのぶりの貫ツク等トウの伊勢イセと同時トウジのくねのせを幹ツグかどのねれ
 くねものせいといひきくたはちかきりい何ナニもあれぞとせき
 かりふと或ナニハ業平ノボリ何ナニはめあひいねし書カクハ作者サカシもどくさ
 まぶしは謙退ケンタイりハやねの自訓ジクンかものる古今集コキンシュは業平ノボリの
 ふか載ソレしは河原カハラのくさきとくおほいけものくさき似ニし
 古コ又マタ家集ケシュ日記ニギかよりひきくたはふのぶりのくさき今集イマシュ乃
 何ナニか何ナニのくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさき
 載ソレしハ他者タタのくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさき
 もらう彼カハ勅撰チヨクセンかたきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさき
 もらうしは採集サイシツ拾遺集シツイシュこれに准スりてふとくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさきとくさき

め 外篇
くろく

伊勢物語傍註

二卷

賀茂季鷹

いふべしりゝ諸君の美^{イタク}國様を――もろく、かゝらざる所
とふれど、いひつゝも、こころ安永のよあす

大和物語

二卷

此の作者の考証は、^{ニミヤウ}考証^{ニミヤウ}の^{ニミヤウ}なり^{ニミヤウ}す。季吟^{ニミヤウ}、^{ニミヤウ}きん^{ニミヤウ}の^{ニミヤウ}び^{ニミヤウ}す^{ニミヤウ}の^{ニミヤウ}差^{ニミヤウ}は^{ニミヤウ}大^{ニミヤウ}多^{ニミヤウ}。

一、桑家の廿二条家の廿三條あやこりり^{ニヤフ}は痛の誤又丈
和歌二百七十首此内連歌之首但中々不同といふ今用

四六定家一の諸自まねもて一字ねえす書字や
 とうけり飲ねすづく二百八十餘首のち乃たぐひめよとや化
 者の説も一とたりすり、八在末歳春（春山）葉平の法男在次君く号すのあ他し

けふは花ふ院の侍也^{アモ}ものゝち侍てはう^ウ中^{ナカ}なりくこの
 西^ニを^オ来^キて^ア侍^セは^ハ春^{ハル}の^ハけ^ケも^モめ^メん^ンお^オぼ^ボつ^ツて^テあ^アこ^コの^ノ
 け^ケふ^フれ^レち^チは^ハ次^ジ居^イす^スゆ^ユが^ガ甲^カ斐^ヒの^ノ心^{ココロ}く^クめ^メす^スて^テう^ウめ^メ

羊子

年譜一
和書部三

やうづつうさうかきうさな中まもてつけくうさうかうさう
いど田村威の序さうさう寛政十二の上本

落久保物語頭書

四卷

加茂真淵

此書真淵講説の筆記信夫某なり人記書と一しふか人
漢字と附一旁訓ともかふ寛政六年とある千産の序り

落久保物語畧本

二卷

け書八万治二の刻一書籍目録畧中とあるが一部の
趣意すくく大かそのくくもすくくめいめい
賜念れ歌一首真中と印さるのけり○此書の趣ハ中昔の長
岡さるの中納言も人けり此中かきけきさる角
きれ歌音よれき姫君かれすは姫君七中の一母の
しきもれかきいけきさるかきさるのく一母の
おれさるかきけきさるけきさるさるさるさるさる
人おれさるの姫君とやけきけ二位のやねるさるさる

さうして、
かきせうとわたり、
仿ちるなり

源氏物語

五十四卷 紫式部

いづのふりて、
太宰府帥は左遷せしむるに、
はるかにいひは、
めづるに、
やれぬに、
武部作やれぬを、
しも六月十五夜、
すゝみいり、
紙やぶ、
とるは、
なほ

和里日部三

卷一百一十五

卷一百一十五

澤書一覽

[illegible]

[illegible]

そいものハ独学の成就くゝのたゞなり 孝庸の伝ちゆうきくハ新撰
集のやまはむづかしくハ子載集 新勅撰集 諸古今集
後拾遺集 新撰古今集

一巻 桐壺一名重前載のきん 二巻 集本 今抄きんなり

并一 空蟬 殿たかのきくじし今抄きんなり 〇巻のきくじし

ふはね竹方たけかたのきくじし春日祭 又方五いの巻のきくじし
菊の宴うりやなり 傍たがひのきくじし 并なてはねのきくじし 〇例たとの
凡たゞなり 〇のきくじし 〇のきくじし 〇のきくじし 〇のきくじし
〇のきくじし 〇のきくじし 〇のきくじし 〇のきくじし
傍たがひへはねし 未摘みそくハ傍たがひねなり

并二 夕顔 殿たかのきくじし 〇のきくじし 〇のきくじし

三巻 若紫 今抄きんなり 并 未摘花 傍たがひのきくじし

今抄きんなり 四巻 紅葉賀 〇のきくじし

九巻 礼宴 〇のきくじし 六巻 葵 今抄きんなり

七卷

柳

うゝわゝゝ

八卷

花散里

うゝわゝゝ

九卷

須磨

うゝわゝゝ

十卷

明石

同上

十一卷

浮標

うゝわゝゝ

十一卷

蓬生

うゝわゝゝ

十二卷

関屋

うゝわゝゝ

十三卷

繪合

うゝわゝゝ

十三卷

松風

うゝわゝゝ

十四卷

薄雲

うゝわゝゝ

十五卷

槿

うゝわゝゝ

十六卷

し女

同上

十七卷

玉鬘

うゝわゝゝ

并一

初音

うゝわゝゝ

并二

胡蝶

同上

并三

堂

同上

并四

常夏

同上

并五

篝火

同上

并六

野分

うゝわゝゝ

并七

御幸

うゝわゝゝ

并八

蘭

うゝわゝゝ

并九

植柱

うゝわゝゝ

十八卷 梅枝 仁河名す 十九卷 藤葉 仁河名す

二十卷 若菜上下 仁河名す或ハ下ニハ仁河名す

廿一卷 柏木 仁河名す 廿二卷 横笛 仁河名す

并 鈴虫 仁河名す

廿三卷 夕霧 仁河名す 廿四卷 御法 仁河名す

廿五卷 虹 仁河名す 廿六卷 雲隠 仁河名す

廿七卷 雨 仁河名す 廿八卷 雪 仁河名す 廿九卷 月 仁河名す 三十卷 日 仁河名す

臣長屋 賜死 仁河名す

廿一卷 仁河名す 廿二卷 仁河名す 廿三卷 仁河名す

廿四卷 仁河名す 廿五卷 仁河名す 廿六卷 仁河名す

廿七卷 仁河名す 廿八卷 仁河名す 廿九卷 仁河名す

三十卷 仁河名す 三十一卷 仁河名す 三十二卷 仁河名す

三十三卷 仁河名す 三十四卷 仁河名す 三十五卷 仁河名す

引くやうな物ものゝけきとてしるはれもよくしる

なつてしるものゝけきとてしる

廿七卷 白宮 白宮名す或は白兵部とも一名薫す

并一 紅梅 紅梅のなりけし 并二 竹川 梅のなりけし

廿八卷 橋姫 宇治十帖 廿九卷 榎本 榎本のなりけし

三十卷 忍角 三十一卷 早蕨 早蕨のなりけし

三十二卷 寄生 三十三卷 東屋 三十四卷 浮舟 浮舟のなりけし

三十五卷 晴蛉 三十六卷 手習 手習のなりけし

三十七卷 夢浮橋 三十八卷 夢浮橋 三十九卷 夢浮橋

四十卷 夢浮橋 四十一卷 夢浮橋 四十二卷 夢浮橋

四十三卷 夢浮橋 四十四卷 夢浮橋 四十五卷 夢浮橋

四十六卷 夢浮橋 四十七卷 夢浮橋 四十八卷 夢浮橋

四十九卷 夢浮橋 五十卷 夢浮橋 五十一卷 夢浮橋

五十二卷 夢浮橋 五十三卷 夢浮橋 五十四卷 夢浮橋

於
之

○於若折は源氏物語目録部より明石の次は浦佐い東屋のま
狹席やうの巻より今れから八両巻をスー〇五十四帖のうち狹姫の巻より
もゑの厚指の巻より了りてまた宇治十帖より了るハ是源氏の巻これ
なり。なる。陽子の巻まじちね宇治のハけめの巻より了る。いなり。
とくろ。〇契やえ更科日記にも源氏は五十餘帖とつたり。六十
帖といふに今流布すハ雪隠浦佐狹席等二三帖もどつて一の
さへ大ねが奉くるハ帖よりより多敷天宮の六寸巻ナナを准らるゝ氣
よく一は助仙の中よ大言教よりくけふり。い。台宗タイシウお

源氏物語嵯峨本

五十四卷

角藏氏藏板、くちふ克悦のち、料紙ハ雪母紙川く表紙ニ
いづれは伊豫あゝこれもき毎々くすくめりまぬのよけ
し松尾氏の角藏よりみれば、おかしういへる角藏と称す今

へるもひくもあはれはのりけりあしそんすきし
このさあきまひれやいんぶめはなれはらむら
てき明かきむむむのふむのあはれきすまのふ
かきむむむあかりの源氏大國あそく正應のふ
てん明親王は國東へといふくわ軍は相ふめく國東の
天ふたれきすは彼親王は内親のふは素直のふ
源氏のはあきく作トすくは素明かきくく
てきせら

ひくはきききききききききききききき
列めくきききききききききききききき
け二首ハ素氏素のふはきききききききき
ひききききききききききききききき
ひくきききききききききききききき
ひくきききききききききききききき

河海抄 了本

二十卷

四上善成公

和書部三

そのふいふも名をうせよとてのうり

文正元年

文明十三年

書寫の奥書あり

乃知書

下
子
子
子
子

11

ていつて

根

線と考へずいゝ

い
け
よ
た
し
一
事

言のなりたるもの

一、

ト
に
ち^{モト}
ふ
め

も末にやうく

...

三

3

五

いふ

考へ

三

[illegible]

すめみ

三

らねる

源氏論義

一卷二本

伏見院東宮^{トウグノ}代^シ所^シ弘安^{コウアン}二年十月四日の夜源氏物語の中^{ナカ}の難義^{ナンギ}と
二のうへに同^{ドウ}抄^{セウ}ありて六日の日^ヒ満^{マン}成^{セイ}すきよきなり

右方 康能^{コウノリ}朝臣^{テウシ} 兼行^{ケンギョウ}朝臣^{テウシ} 定成^{テイセイ} 為方^{カエカタ}

左方 侍從^{シジョウ}三位雅有^{ミヤナリ} 範藤^{ハネフサ}朝臣^{テウシ} 長頼^{チカヨリ}朝臣^{テウシ} 具那^{クナ} 左右八人

同題^{ドウタイ}二箇條^{ニカンジョウ}ありて一^{ヒト}は勝負^{シヤウブ}決^キすも二^{フタ}は満成^{マンセイ}なり 判者^{ハナシヤ}なり

源具那^{ゲンクナ}序跋^{シハツ}も同く此^{コノ}跋^{ハツ}ハ文體^{モンテイ}を古今集^{コキンシュ}の序^シより一^{ヒト}つゝいへる

二首^{ニシュ}も又扶桑拾葉集^{フサウシツエツシュ}のや ○此書^{コノシヤ}奥書^{オウシヤ}雅世^{ミヤヨ}のなから以て

書^{シヤ}曰^{イハレ}子^コ丁^{テイ}より一^{ヒト}なり寛文元年^{カンブン元年}上木^{カミキ}す

仙源抄^{センゲンセウ}字本

一卷

藤原長親^{フジワラナガチカ}

此書^{コノシヤ}も源氏^{ゲンシ}ものなり秋^{アキ}すゝき問^トも然^{シカ}らばいへるなりは方^{カタ}せり

○長親^{チカチカ}ハ南^{ミナミ}の明^{ミヤコ}魏^{ウイ}のなり又耕雲^{コウウン}と号^{ナヅケ}す此書^{コノシヤ}の跋^{ハツ}よりいへる

いづれなりとありて一^{ヒト}は諸書^{シヨシヤ}ハ明魏^{ミヤコウイ}のなりといふ

和書部三

[illegible]

一

えん

山あけろのふれいふかきとめてうらひのかりふとてうら

○泰山子開と云 右大の長親は名明魏耕雲と号す其子河

物流といふはいつハ南のうと云 右大の六箇言を授く又累代の人あり

河北の地の系は明魏はかといふ新しきものなりとていふは

つみかきしは伝承お跋と道春は下の野植は明魏はとれいふいふ

お跋といふは自由は書つてさやまのたすきとていふは

牛のつみりとのふれいふ今伝承お跋の跋とていふは

いふはさきとていふは林氏の魏の設けといふはさきとていふは

跋といふはさきとていふはさきとていふはさきとていふは

源氏小鑑

二二卷

同上

卷の目は物語衆起といふ 准據の目 巻ねばゆかりありとていふは

建部殿といふ人といふ 春ふやふ内侍の目 女席更衣等け名目の目

りといふ以下は二部の大意といふ 再ちていふはやう○此書ハ公方

勝定

院殿義持壬午

公(耕)や

老人進呈

七

記

源氏物語系圖

一卷

其係一部の中を凡そ五箇の五箇と與々系圖の五箇とを以て百二十

鶴人別々あり又名付人ナクハ何也ヤ 附録又卷ノ所ナク

初平源氏君薰大將等々幸誘レ今其次子請少納言作加

名 橘人 巢守 八拾 了了 花見 嵯峨野の上下

古物語名
伊勢
竹取
月江
狹衣
正之位
隱篁

石屋
吉
松

參女身ハナニナホノハナニハナニナホノハナニハナニ

持三ノハノ新有の。ち之。中ノ。身書。云。此。一。冊。依。持。補。王。不。金。

[illegible]

大易圖說

源氏物語系圖 寫本 一卷

系圖の……利々めすふの附録なり。○逍遙院実性公の

墮獄タツのサタけ

ゆゑは源氏降てあるが人地タツに降なりくあり降し

け、や一篇の表白ハリ、いつ、命○雅言タツ按ずるは宝物書

よ、此武部墮獄、苦患クケン、人のふるふ、

奥ゆき、おもしろ考つる小づり、やそれゆゑ、信シン実マコトの

臣の今物、おもしろ人のふるふ、それゆゑ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、おもしろ、おもしろ、

源氏物語千鳥抄源氏物語千鳥抄写本

二卷

跋、昔四旦の儀儀同三司光源氏のおり、清涼の唐紙唐紙ひ、わく、至徳

いふ相承のまゝに一日もそつちを怠りな

又、^{サウ}双紙に付く

ついで子もつと三十二の身成されずと九十一歳のまゝいふ

へまろく今これ松尾作の閣の席下セキカまゝもてせぬといふ

覆^{フツ}座^ザの^{カウ}あ^{ムク}い^{ムク}す^{ムク}た^{ムク}い^{ムク}老^{ムク}の^{ムク}は^{ムク}世^{ムク}か^{ムク}ら^{ムク}い^{ムク}た^{ムク}は^{ムク}子^{ムク}

るのなほちもどみかほのしんとくんのものゝんをすけ

應永廿二ニ季春キ下カシ齊ス孝
得トク中ナカ義ギ載サイ計ケイ怡イ和ワ也ヤ見ミ芳ホウ

應永廿六の春、
白地合字二五五三
伊予重華は、松平也且傳
索下史ソウカソリ

烏餘青字本
二十卷
一函
藏公

一十卷 一條 良公

[illegible]

へりかゝるおれあやかしらんかこゝもあらず○明星わ

河海秋甘卷四上善成公作順世法三世の存し山系の人三

其上是故。果應河川勘へて多量に速く。水が

和書部三

1115

河内を近き水原へ移し他し花を餘情に成あき兼良分の他は
 のほけり義經と演説すこれ青表紙の相違のいふ
 されど表紙ハ只奥入一抄の青紙のいふも花を
 両抱かへんむいづる物作の東西はさすべさやりの至宝のお
 かり○ばお自序は、と神祇の至宝は保氏お語はとていふべ
 ころうとせしめてありひのめり花をのほけり
 家々は親きとくく雪堂の切つむいづもなげけやめ
 け海おへい今考つく保き書さるるりめの中のお
 けい指南のいへるるあうあきるの海ふれいあ
 けりあきとてこのねまきうとてきくせばなり鬼あ
 残さるいひあやめはいふハ文達のをささうあふれ
 はすのいふかんがふらんやつかよる眼のいふらん
 のつく花を餘情に成あき兼良分の他は
 巻末は文明四年除月上御桃花丹士七すてふ

兼良公の別号ベシカウしゆと龜仁オウニラン乱の南都ト著アラるものなり
花鳥餘情異本写本 二十卷 同上

明星抄より花鳥餘情両なり一ハ流紫より一ハハ更
はより流紫より相違のなり

源氏物語年トシタテ 二卷 同上

巻首より源氏物語諸色年より一ハ源氏君延平のより一ハ巻く

上巻 桐壺巻より 真木村巻より 源氏二十八条

下巻 梅枝巻より 廿九条 幻巻 源氏五十二条 薫五条

又以下薫の年より一ハ 夷浮巻 廿六条

○此書は諸抄年曆の相違ありヤハ未だありあかじ○奥書曰く源
氏物語年より二冊者故從定閣下所製也件は本應仁太乱於桃坊
文庫為白浪奪取畢又後任十年不慮感得之より永正七載季夏
中吉前博陸史より成恩寺殿所息一條殿冬良公也○一ハ奥書云々

ふちのくさくさ

初音卷 タカコジ う巾よのり

蝴蝶卷 いけろいのり

藤衣巻 ほろろ らるみ月のみ

此より三箇けたるハ揚名の兼ねのころがけのいめなるものなり

不審抄出 写本

一巻 宗祇法師

河海花も雨抄の外は不審のものなり 一巻 祇園へりひのり

同卷のころし

常木別註 写本

一巻 同上

この巻ハ雨衣不定のものなり 一部けりしは解やすしぬ電
かれも別はゆせぬものなり 宗祇の作なり 奥方あり

弄花抄 写本

七卷 牡丹花宵拍

河海抄花鳥餘情等のらやなり 花にびて別々なるものなり

らり ○此書ハ通達院実隆公より牡丹花老人の閑書より 卷首は
光徳氏年次 延生桐壺巻より 五十二卷宛のものをとる 薫ナ四巻

白くみえり 後撰の巻より 此より白くみえの巻以下混乱決りしと

みえり 別よりこれにすしと 此より榮む物にほはるる物に

浦よりこれの巻より此の巻をみえりといふ 作者 時代 題号 准校

古来 秘蔵ありし物なり 〇奥書より文明より八仲夏初九入眼より

又云 同九年二月重如也 又云 肖柏より 卯より 巳より 辰より 巳より

三年 春中八種玉受養主後合より 一巻より 文明より 宗祇より 卯より

不審 同 成見より 後撰より 肖柏より 一巻より 卯より 巳より 辰より 巳より

肖柏より 後撰より 以 後 自筆 被 勘 載 合 より 卯より 巳より 辰より 巳より

又云 卯より 巳より 辰より 巳より 卯より 巳より 辰より 巳より

年遊り 三十三世他阿上人の假字の誤り

一 葉 抄 写 本 十五卷十本 同上

才一 作者の 作意の 時代の 諸か不同の 題号の

源姓の 准校の 等 卯より 巳より 辰より 巳より 卯より 巳より 辰より 巳より

河一碑一摘（下）和カド一二字ハありあり○奥書云云右十五冊あり
存以テ説宗祇禪師弄花諸抄等之編（下）之云明應し卯孟春仲の

肖柏

細流抄 写本

二十卷

西三条公條公

此書も河海花鳥のりやう紙にうけ取へりて取へりて花は
うれに、はるがさうりやう令體ハ弄むが紙にうけ取へり
て、はるがさうりやう

明 抄

五十五卷

西三条実澄公

此書も細流抄ハ祭端一卷紙にうけ取へりて取へりて
祭端ハ諸中不同のものなり河海花鳥のりやう紙にうけ取へり
て、はるがさうりやう令體ハ弄むが紙にうけ取へり
て、はるがさうりやう

花多餘情

雨なり

こよけおきもの

春之一

歌のり

其外海

りての

書

此一部

庭訓

年彼

聴書

詞短

心不足

更難

可令

為蠹

魚

果

爰或人

難去

不

の

仲春

十九日

又

天文甲午

曆千

秋臣

即然

左利

の

按

す

此

の

角

秋

假

名

の

部

の

す

孟

津抄

二十一卷

九條

禪

因

植

通公

植通公

政

中

号

一

は

海

花

多

餘

情

の

意

趣

院

殿

再

同

す

ぐ

極

め

の

こ

の

こ

の

こ

の

こ

の

こ

の

こ

の

の

こ

の

こ

の

こ

の

の

こ

の

こ

の

こ

の

卷首と物語の發起の古米称美の何より
に叙べて中々花

鳥餘情休園抄花抄一葉抄おけりて常本卷の奥書より右

此園書宗二方に齋之抄更以不可有外見云云○牡丹花前相と歌集

かゝる村井直道平城跡考より饅は屋宗二方に齋と号す姓は林氏

原家朝の人林和靖の裔より林氏といふを約元向宗の應

四年幸已より建仁寺の東西禅師と称く宋より内々相

て此より日中より姓は林氏と改め始く南都より位より

饅は製造すより奈良饅はのありて其子又宗二より饅と

製すより業より宗二連歌及び歌書に好く源氏物語の

おけり名いあり林述抄より又節用集に採り林述抄せり饅

は屋中と稱すより○林述抄は林述の撰し具原好古

和事始より林述が節用集より

源氏紹巴抄 二十卷 里村紹巴
けおの返りも八称る位なりけりて巻首より中々の差大

蓮歌り里村昌休のひき書し昌休ハ昌北の又し

花屋抄写本

四卷

作者つゞいふれし書體小しふ和桃抄やどりけりふの故
とてげんふれにや京明に梅花もすけりのとれりて桃てしとてふ
ふ賢一覽といふものすゞのふにききまゝいのうとてふあ
うろとどりなまきどくれちふまきせあふてしものみねし
まゝおろくめ女どりのためとてふとてふこれとてしつけけり
おとれとて人女どりのためとてふとてふまねれりてしとてふ
くねりつけけりて思案なりとてふとてふとてふとてふとてふ
○し書お徳の詞のたゞしとてふとてふとてふとてふとてふとてふ
のりてふねれりてふとてふとてふとてふとてふとてふ

岷江入楚写本

五十五卷 中院通勝卿

通勝舟は客なりしあひの著述とてふとてふとてふとてふとてふとてふ
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふ
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふ

[illegible]

加旃親炙ニ光内府^ニ勅侍^ム講帷^{イニ}完^{キム}此物語之奥旨^ヲ依^テ之就^ニ老
人^ニ求^ム果^ニ余^ハ素^{ヨリ}願^フ於是^ニ老人^ハ勿^ク感^ズ其^ノ志^ヲ考^ヘ之^ヲ諸^ノ抄^ハ繁^キ者^ハ之^ヲ記
者^ハ心^ニ缺^ク者^ハ補^フ互^ニ有^リ得^ル失^ル者^ハ而^ラ存^ス之^ヲ十^ノ稔^ノ之^ヲ間^ニ雪^ニ簪^ヲ露^ヲ抄^ハ果^ニ五
十五^ノ帖^ヲ可^レ謂^フ集^メ大成^ニ也^{ナリ}余^ハ乃^チ題^ス以^テ岷^ニ江^ヲ入^リ楚^ニ矣^{ナリ}○此書本文
の凡^ソ五十四^ノ卷^ニ雲^ニ隱^ニ說^ハ一^ノ卷^ニ以^テ海^ニす^ル諸^ノお^ハす^ルの^ハく^ハ大^ニ勢^ヲの^ハもの
と^ハ料^ハ紙^ハ半^ニ面^ニ十^ノ六^ノの^ハつ^リの^ハ所^ニ美^キや^ハす^ル○又^ハ此^ノ書^ハ竹^ノ内
本^ニ依^テ見^ルや^ハり^ハう^ハり^ハ有^リ者^ハ後^ニに^テ又^ハい^ハる^ハの^ハく

源義辨引抄

二十卷 一華堂切貼

三光院実澄公の講説の圖書なり卷首に云原氏の徳をいふや
り^ハ後^ニに^テ又^ハ南^ノ合^ニ法^ヲ信^スや^ハり^ハ唐^ノ王^ハは^ハや^ハり^ハられ^ハた^ハや^ハり^ハす^ルこ
の^ハ内^ニ板^ハを^ハ粘^ルや^ハり^ハう^ハり^ハる^ハ風^ノ流^ハは^ハ粘^ルや^ハり^ハた^ハの^ハの^ハい^ハふ^ハもの^ハ
の^ハい^ハふ^ハや^ハり^ハる^ハ古^ノ来^ノの^ハ秘^ニも^ハす^ルこれ^ハい^ハ文章^ハ板^ハの^ハい^ハふ^ハ世^ノ俗^ハの^ハ
の^ハい^ハふ^ハや^ハり^ハる^ハ外^ニを^ハ料^ハけ^ル人の^ハ何^ノを^ハけ^ルと^ハ進^ニ言^ハふ^ハ所^ニ見^ルの^ハい^ハふ^ハ
と^ハさ^ハり^ハる^ハの^ハ内^ニや^ハり^ハる^ハは^ハ依^テれ^ハ何^ノを^ハき^スる^ハに^ハは^ハり^ハる^ハこ^ノの^ハい^ハふ^ハ

撰者氏名はしるすべし、すなわち一部の中より連絡するものなり、
めづるべきなり

光源氏一部歌詞 写本 一卷

巻首より序のついでに、物語の起る所、一部のちやうど
しるすべし、採擷すべし、撰者氏名はしるす

源氏大概抄 一卷

一部の大意なり、しるすべし、撰者氏名はしるす

源氏物語目次 七巻 三本

これハ源氏物語一部の中の内、しるすべし、採擷すべし、撰者氏名はしるす
しるすべし、一名凡印しるす、〇半截ハ小本等ハ附刻す

源氏物語引歌 一卷

これハ巻のついでに、古歌なり、しるすべし、採擷すべし、撰者氏名はしるす
しるすべし、〇奥書ハしるすべし、採擷すべし、撰者氏名はしるす
しるすべし、書ハしるすべし、採擷すべし、撰者氏名はしるす

萬水一露

二十八卷六十二本

能登水閣

此書河海花を弄む細流等の肝要………省略せ
ず。三つは華の二十八品………廿八冊………
應元亨十二月の身位の跋………○卷首は原氏物語圖書
とあり。………お語作者より。………お語作者より。由なり。………
大意より。古来秘史の………紫式部の………お徳書を………
号なり。………お語作者より。………原氏姓と………五十四帖
巻名の………四諦法門の………四門………二諦の………
………巻末は雲隱の説一卷と附………○………お語の中みと
今………作者永南八月村齋宗碩の著………連然………
………○………鳥丸走雄………

山路乃露

一卷

物語の體に差れはるるの巻のや、紙書つづきものゝく、セリシジ伊勢の他よりいづれと二条家より引取りしものにて。○こゝには
截り小々等より附刻す

源氏雲隱

六卷

并一 巢守

并二 橋人

并三 法乃所

并四 いさうと

并五 やめり

以上六卷と。○は書方六卷の奥書と云

雲隱二冊、元源氏の物語全部、作者也此末武部タテ音室コナ成りしもの納す
減り菩薩ハツサツと柳中當寺タナテと作れや、康和元戌戌曆正月日
石山寺、住僧大僧都信譽、又云石山寺、奉サカ元重コノム夢ユムと云く、け六冊
納し、け法あるの宝藏と云納す、と、奥書と云く、元應元年
九月二日、山二住持中細云、茂系と云く、○は書方、と云、依ギ
り、と、奥書の奥に、つづきあり、○梅づ、と、け、ち、け、六卷にせ

この源義辨引おと云隠初巻すはつと地水火風空識の
六つと一とを要すれども石の神話何や静寂すれども
乃ちしや初巻と隠し号すもの巻のみと云ひつゝ
さあつとつ部の行ふ佛はの眼目と云

源氏云隠抄

三巻

浅井了意

上巻奉りてつれ六巻の依たのほし合刻せうの
序に源氏の系流の巻は冬上天の号なりつゝ
なの上巻より四十の帝賀に幻れ巻十三日晦日は
の巻はうけつて一月一日よりおととせしと云
らひし巻を或はつハやのうと云ふ花と云
巢守のうけつて今にちるすなり極くはのあ
ハ巻は里案ずる花と極く下四くひさうと云ふ
く巢のうけつてハ巻はうけつて名うす
に巻はやせしと云ふはなれなむいづも
は巻はやせしと云ふはなれなむいづも

すねはくよりめはすなり 近宝五の刻す〇或に源氏重
隠は六帖はほろふ浦の帖のていつ作者不^明一条校図のりだ
―たよ系圖のちの 稿人 巢守 八柄 さうぐ 花足 さいの
上下とさくはか他言作^カをきき名とさるれうき〇梅す
季吟雲隠はる愚梅すせう保氏ぬ信六十帖のひかり
てた五十四帖は上雲隠の巻あむうううううううううう
さあううううううううううううううううううううう
備お^カううううううううううううううううううううう
う利^カ柳ハ梅^カ岩^カ城^カ中^カ上下^カか^カり^カ一^カ巻^カは^カく^カさ^カう^カう^カ六十帖のねを
うめくうううううううううううううううううううう
むの系圖のおうううううううううううううううううう
何ううう一^カ言^カも^カ用^カひ^カす^カう^カう^カか^カの^カ法^カお^カ一^カ切^カう^カう^カの^カ法^カも^カと
うううううううううううううううううううううう
十帖ハ天竺の六十巻は准^カや^カう^カう^カう^カ又^カ台^カ六十巻も止^カ観^カは^カ閑^カは^カう^カ

おまややうを蒙式部とて巻物にりくふ十帖とて一巻にま
ゝめりてあつていふやうに雲隱のいふけるまゝ源氏朱雀院の廟傳致仕
大臣藤原黑大臣堂兵部等其外すゝみけと糸ふよりのりて
る人の官位昇進のりてゝるものりてゝるりて青蓮の
巻は源氏とてゝる人々つてゝる

源氏外傳字本

五卷

熊澤了芥

此書の題名ハ源氏物語ハ表ノ如クとていふやうに實ハ好ミの
りてりてあつてせめ末よりゆけとて代の長久やうて後
流にんやあつてりてりてりてりてりてりてりてりてり
人すれけりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
すゝる人いゝてあつてりてりてりてりてりてりてりて
わせりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
かゝりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
がゝりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

次ハ書中人情

三才圖會

五ノ下ノ

ふむふむ

吐氣之類

結城之子女

子中子音

故に管絃の

芥子園畫傳

お世ふも丁あ

笑人のうづし

を
に
く
ぎ
き
ん
や

一、
二、
三、
四、
五、

中
人
下
の
人
の
人

羊車一轎

文法

一、如所古

三
氏
の

凡創

此の位

長云は秋ハ海柳^{うゑ}の^な！ふゆ^{ふゆ}うこそも来^来

上
 もいろ
 ず
 力
 イ
 ねみ
 お
 戸
 も
 ろ
 下

書に於ては考へずして
何事をもそのまゝのまゝ

あふりそは花の餘情

いふをきくもたれども
かきつゝ

いふやうに、このおひつゝ、すては、おめづのてい

[illegible]

其は并花柄細流石とほほむるの襷袴たふさく

入的星物孟津柳嶺江入楚石水一海洲村

志乃草

字本

四卷

北村湖春

湖春ハ季吟の男ナリ。○先ヨリミサヲ引キ十帖係氏ナリ。のちて
けり。これ大意ヲ示サレド、いふ。こゝでえん。かゝるあつて、
こゝでこゝのあつて、いふ。こゝでえん。かゝるあつて、
のちて、こゝでえん。かゝるあつて、
奉。のちて、こゝでえん。かゝるあつて、
こゝでえん。かゝるあつて、
て湖春の老病、人のこゝでえん。かゝるあつて、
おれ、こゝでえん。かゝるあつて、

いろく拾遺シウイと云づけりて發端ハツタン二巻あり河海抄の如き
ものも知れけりきものよけり所記にありてハ更科日記サカシノニあり
かゝるものもあはれぬのせ其餘狭衣サヤノモノの如き所記にありてハ
款のハ保氏君如く明るよはすハ誤りあり武部タケベの如き
武部の他あり他ありなりと云ふハ勅撰集テツセンと云はれりとの名に
も諸抄モロカキの如き物の大意オホイ知りてハ用不用ヨウフヨウありと云ふ
み古抄コカキの如きもの褒貶ホウテンハ資治通鑑シイチツウカンの文執モンシツ司馬光シマミツが如き
もの今案イマアンは誤り通鑑ツウカンハ宋英宗ソウエイシュウ治平チヘイと云ふ
次ツギは元祐ゲンウの如きもの如きもの如きもの如きもの如きもの
み云古抄コカキハ台家ダイケの化義カギ化カはの如きもの如きもの如きもの
くけり物語モノゴトの如きもの如きもの如きもの如きもの如きもの
はくけり日記ニヒギの如きもの如きもの如きもの如きもの如きもの
みくけり日記ニヒギの如きもの如きもの如きもの如きもの如きもの
りぬるもの如きもの如きもの如きもの如きもの如きもの

五十一

首シユは系圖シの卷尾ビは尚友軒牧旦叟バツ詔フ々々々奇キ評ヒョウ確カク論ロ
可シ謂フ物語モノコト指南シナホ

源語話本

四卷
五井純續

口書ハ物語一部のゆく解キコ一ヘニ部代々あるは
 の次第テイよりゆくゆく訓法をゆくゆくゆくゆくゆくゆく

源語梯

三卷

天地時候人倫^リ文體^シ生植^セ氣形服食器財人事^キ虛詞^{キョ}等の
門部^カ就^スて考^ヘめ此詞^ジのつらはよきものあり其部^カに收^ホめられ
ぬる一^ニ契^キの字^ジが附^ツくはよく係^ケり拾遺^シの條^{ジョ}に此書^シの
作者^カが^リてゐる常^{ジョ}の原語^{ゲン}詰^ジはうすまゝの^ニより
より井竹^イの撰^{セン}著^{ショ}の^ニ附^ツ刻^キす

源氏掌故字本

四卷

有賀長伯

物語一部のうちまゝに世にまゐりてゆくものなり。あつたてゝいふ詞のあ
なまゝにふくみたるものなり。近所のものどもに伝へていふ

紫文 ハ 虫 ハ 乃 ハ 轉 ハ

五卷

多賀釣醉子

物語のなみだは俗語より刊中と帖の二首巻ハ摘趣
凡例 二巻 まりつば 三巻 まりきい 四巻 同 五巻 りやと

凡例 二卷

きつは

三卷

毛

四卷

四
五

卷之廿二

享保六年甲陽府中仕官多賀半七菴と

源氏男女裝束抄

三卷

壺井鶴公羽

源氏男女装束抄二卷ハ、水ぶくの中連歌所宗碩（宗碩）のり、さすふ、て

三
廿
十三

十

多々花々

餘情

丁巳

ス

詩

海田流毒記

等の説は、いふ奥に右一冊者依數寺懇乞令附とある、祐梁星

永正十四年二月七日宗碩花押より宗碩為管見の六橋紙抄

すゝくふきひかりすゝく
い州の七松は風吹

あつてもい書が好く衣裳の名称ぬいすれ雑染の定式とす

3
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 5

とちく粗あら五河速はやあゝ康映原やしろ中のよりつうをつく上未みづか

とてしむる所なりて元禄九の年の季秋（きあき）板（いた）鐫（きん）めく世（よ）なり

了れは鶴翁の書紙よむ家れ説はよく是同にるれ取捨
すむとくろものゝねく關くすし海よりしつあねとく
くもあはく其持紙しめくせしめりあす今お板紙にめく
——或はよは註——く下紙照——或は下は註——くふくふの
取捨すむものね擇くこれ紙折裏——人紙——くろの響ふた
ねあ——く——鶴翁真字の自序くけくの後附一卷くハ四
本は衣のきく同表ふくく同小褂くくひくのきみふあめ
袴のきあひくふものき扇のきくふものき胡曹抄衣乃
くくのものき藻帖も衣のきくめく等紙記す紙書乃の奥書
くく女官餘抄胡曹抄藻塩草之抜萃者渡邊康映後附也又
少補且所くか紫龍頭畢壺安著の巻首は享保二年正月法眼
昌億序あり

源氏物語歌

一卷

刊本ハ源氏歌謡として物語のくめく七百九十餘首巻紙

逐くこれ故き一ふきしれ名が所す実ハ案支部一人の係す
ころし○勢中を袋と子と云古物語のやれ持集ふをなしいし
うやね拾遺雜一有系お時故

「新ひうさむしり一室に替りしれさ月もすみり」

これハ原氏物語の時とて物語ハ入あさひ物語ハ平伴の物語ハ
案支部ハ不徳しとてづりか今れ中よを教のうてなむ
のうめれり知もとておれ一替りつれさ口て今案時れさ古
が乃原氏ハいさけ今れ原氏ハいさけ外り一雪隠の巻外
えとて原氏嘆哉此ふとてよあやうなりと支部なむ成入
かしく又さかた利しとてやあ時仙とちぬさうのうてしやこ
まじしこれ一候ハあ時となせれとてやちうののさう乃
さし集ふを伊勢物語ハこのゆに拾遺まよ

高ニおしとやうゆさうれしとれそめめあや知ん
りおしとやうゆさうれしとれそめめあや知ん
おしとやうゆさうれしとれそめめあや知ん

川上靜菴

藤原字万伎

群書一覽一和書部三

源氏物語玉の小櫛

九卷

本居宣長

卷首の宣長の歌

引けのんたのゝあやさちきまうむけぞう
此書^レの趣意ハアヤサチキマウムケゾウ
^{カガ}
考へ^ル所の是也然るにアヤサチキマウムケゾウ
^{イハシ}
湖月翁の誤と云ふ

卷之一　すくゆ語書のす　此の作者のす　紫式部のす

山崎の書
作于時世
けむ清の書
准提

註釋
湖内抄
大旨卷の河と

卷之二 大旨
卷之三 改正年立圖
卷之四 改正年立
卷之五 今の年立

湖月抄より大抵考てかみの相違の所湖月抄の紙頁

1875

卷之五 卷之六 卷之七 卷之八 卷之九 卷之十 卷之十一 卷之十二 卷之十三 卷之十四 卷之十五 卷之十六 卷之十七 卷之十八 卷之十九 卷之二十 卷之二十一 卷之二十二 卷之二十三 卷之二十四 卷之二十五 卷之二十六 卷之二十七 卷之二十八 卷之二十九 卷之三十 卷之三十一 卷之三十二 卷之三十三 卷之三十四 卷之三十五 卷之三十六 卷之三十七 卷之三十八 卷之三十九 卷之四十 卷之四十一 卷之四十二 卷之四十三 卷之四十四 卷之四十五 卷之四十六 卷之四十七 卷之四十八 卷之四十九 卷之五十 卷之五十一 卷之五十二 卷之五十三 卷之五十四 卷之五十五 卷之五十六 卷之五十七 卷之五十八 卷之五十九 卷之六十 卷之六十一 卷之六十二 卷之六十三 卷之六十四 卷之六十五 卷之六十六 卷之六十七 卷之六十八 卷之六十九 卷之七十 卷之七十一 卷之七十二 卷之七十三 卷之七十四 卷之七十五 卷之七十六 卷之七十七 卷之七十八 卷之七十九 卷之八十 卷之八十一 卷之八十二 卷之八十三 卷之八十四 卷之八十五 卷之八十六 卷之八十七 卷之八十八 卷之八十九 卷之九十 卷之九十一 卷之九十二 卷之九十三 卷之九十四 卷之九十五 卷之九十六 卷之九十七 卷之九十八 卷之九十九 卷之一百

狭衣系圖

一卷

逍遙院實隆公

源氏物語の系圖（かぎず）ひきつゝ他（た）なま（な）る（る）かぎ（かぎ）一華堂（いちけいどう）切（き）脇（わき）の

下

紐（ひも）

四卷

他（た）者（た）つ（つ）ぎ（ぎ）り（り）の（の）かぎ（かぎ）狭衣（せあい）のお（お）か（か）り（り）今（いま）か（か）み（み）附（つ）刻（こく）す

和泉式部物語

一卷

和泉式部

式部（しきぶ）の（の）かぎ（かぎ）日記（にじき）冷泉院（れいせんいん）才（さい）四（し）の（の）皇子（みこ）帥（すけ）の（の）式部（しきぶ）か

り（り）か（か）み（み）な（な）る（る）かぎ（かぎ）の（の）かぎ（かぎ）贈答（くわうたふ）の（の）かぎ（かぎ）

かぎ（かぎ）の（の）奥書（おくしよ）の（の）かぎ（かぎ）字（じ）の（の）かぎ（かぎ）此（こゝ）一冊（いちさく）借（か）右（みぎ）中（なかつ）緋（へい）魚（ぎよ）本（ほん）後（のち）去（さ）月（げつ）

十日（じふにち）添（そへ）筆（ひつ）今日（けふ）終（は）切（き）畢（ひつ）吉（きち）子（し）禄（ろく）二年（にねん）五（ご）月（げつ）朔（しやく）日（にち）右（みぎ）少（せう）將（しょう）藤（とう）言（ごん）繼（けい）

草名（くさな）寛文十年（かんぶんじゅうねん）刻（こく）此書（こゝのしよ）扶桑拾葉集（ふそうしつゑしふ）も（も）收（しゆ）め（め）ら（ら）れ（れ）り（り）

り（り）の（の）かぎ（かぎ）や（や）写本（しやほん）

四卷

作者（さくしや）つ（つ）ぎ（ぎ）り（り）の（の）かぎ（かぎ）此物語（このものがたり）の（の）趣意（しゆい）ハ（ハ）枝大納言（えだのうごん）の（の）かぎ（かぎ）大（おほ）い（い）け（け）り（り）

人（ひと）の（の）かぎ（かぎ）二（ふた）人（に）の（の）かぎ（かぎ）一人（ひとり）ハ（ハ）男（おとこ）君（きみ）今（いま）つ（つ）ぎ（ぎ）り（り）の（の）かぎ（かぎ）ハ（ハ）し（し）め（め）あ（あ）ら（ら）れ（れ）り（り）

今
物
語
字本

一卷

信實朝臣

前右京権大夫信実の世に、
書目と今物語廿七冊存す。けり。今傳ふもの、
なり。書信実の世に、
久人のうけ、
子の比、
猥雑のうけ、

今昔物語

六十卷

源隆國

此書日本名八字治大納言物語（り）は書物のすめ物語條（ふ）に
めは今のむし書（き）とせしむる今昔物語（し）号（か）とせしむる今
刊ハ井澤長秀（れ）のあくあけりといふといふといふといふ
ふもあけりひめりといふ凡例（し）といふ書曰り二十卷中は
卷（し）十其六十卷ハ日本部二十卷 天竺部十五卷 震旦部十五
卷といふ目錄（し）

卷一より卷十一まで 世俗傳 卷十二より卷十五まで

怪異傳

卷十六より卷十九まで 悪行傳 卷廿より卷廿二まで

宿報傳

卷廿四より卷廿七まで 佛法傳 卷廿八より卷三十まで

雜事傳

以上二十卷 日本（の）部既（す）に刊行す

卷三十一より卷四十五まで 天竺部 卷四十六より卷五十九まで

震旦部

以上二十卷いまだ刊行せず○此書のうちのゆゑ古今著聞集（し）治

拾遺等といふといふといふ○また今昔ハやれといふといふ

刊行のものしむ

舊^{キウ}本^{ホン}今昔物語集 字本 廿九卷 同上

總目錄一卷中書二十八卷すべく廿九卷に全部長假字とくしんを
おの部紙刊^{カキ}に^カ此^{コノ}校^カす^カは文章の^カの^カより^カす^カお^カの^カま^カと
る數十箇條^カて^カ真^{マコト}なり^カて^カへ^カる^カもの^カ

第一卷 天竺 三十八條

第二卷 同 三十五條

第三卷 同 二十四條

第四卷 同 佛法四十一條

第五卷 同 佛法三十二條

第六卷 震旦 同四十八條

第七卷 同 四十條

第八卷 同 附本義四十五條

第九卷 同 附國史三條

第十卷 本朝 附佛法廿七條

第十一卷 同 同三十九條

第十二卷 同 同四十四條

第十三卷 同 同四十三條

第十四卷 同 同五十四條

第十五卷 同 同四十條

第十六卷 同 同五十條

第十七卷 同 同四十三條

第十八卷 同 同四十六條

第十九卷 同 同八條

第二十卷 同 同十四條

第二十一卷 同 同五十七條

第二十二卷 同 世俗十三條

第二十三卷 同 宿卷十四條

第二十四卷 同 同四十五條

第二十五卷 同 同四十四條

第二十六卷 同 愚行三十五條

第二十七卷 同 同四十六條

第二十八卷 同 同三十七條

目錄の末に諸章令三十三段（京下）數合貳千九百十七枚
 ○第一卷天竺部の（釋迦）釋迦如來人東（東）宿給語 第十卷天竺部
 の（聖德太子）聖德太子於此朝始（佛）佛法語なり

宇治大納言物語

三卷

これを名し世継（世継）より又一巻の刊（カ）や世継物語（世継）とせ
 れどいふと向（ト）ふし○紫文要領（紫文）に宇治大納言物語とて今
 づから（世）傳（傳）へるもの隆國（隆國）の物語なりとすねの人ふ
 かりていふものなり

宇治拾遺物語

十五卷

宇治ハ隆國（隆國）の化（カ）へ今昔物語（今昔）に拾遺（拾遺）と○刊本の序（序）に世に宇
 治大納言物語（大納言）といふものをとて大納言ハ隆國（隆國）より人しとて大納言の化
 又大納言（大納言）の二の男なりとて今昔物語（今昔）に拾遺（拾遺）とて今昔物語（今昔）の南（南）の
 泉坊（泉坊）といふものなりとて宇治大納言（大納言）といふものなり

和書部二

乃ねの義孝親ひうひう〜河の海きうがけあめかん人も
あそびや〜や〜りそ又改もけねねもきり〜代橋まのやも
むろけんして〜り〜て〜
ハ長明の法名なり〜此書今〜刻
お〜あ〜け〜あ〜あ〜あ〜刻

堤中納言物語 写本

十帖二卷

茂原兼輔の作〜り兼輔ハ助徳も家の元祖良門の孫右中
將利基トシモトの子し加茂川の姓トよ家持せ〜り〜り〜て姓中
納言ト〜り〜り〜帖目録

花橋村中將

あめついで

むめめ、娘君

け〜れけ〜

あつ〜りぬ中納言

いあさせ

や〜あ〜り〜り〜

そ〜り〜り〜

そいすみ

〜り〜り〜

毎帖〜の〜一條と〜り〜

大納言物語 写本

一卷

女郎花物語

三卷六本

日中紀行のめく中古近代の勅撰集草子類の中より名
 女のみまがらひのめく教誡よりなく
 シヨ 其中よりめく故実等の女子の覚悟すべし
 他者よりめくす巻末より系文貳作

せり北村季吟自筆とてけり板りせり巻尾に同人の記と

紅葉物語 字本 六卷 蓮心處士

これも他古より文心のけりけり男女夫婦の間の物語なりはあつ
たるせり巻に末より名うと女の歌一首けりうとう蓮心處
士何人か

西山物語 二卷 建凉代山

中古の事記す日記万葉うれ餘りけり事ふやめいと
はなれりけり古傳の事とすうとうあつたり

上巻 こころの巻 うる巻 たちもの巻

中巻 あやの巻 琴の巻 文の巻 ことしの巻

下巻 秋の巻 冬山の巻 けしきの巻

明和五年二月金龍敬雄真字の序に同じくある

吉野物語一名本朝水滸傳 十卷 九本 同上

弓削道鏡惠美神勝和氣清磨等びり其基七上并くつれ
いねのうゝ同ハ古きものなりあつてをく今やれりいね
昔よりけり今これ水滸スイコ付ツるはくしゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きれりいねのうゝ同ハ古きものなりあつてをく今やれり
十アゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りり同幸たむかり刊行す

吉野物語續編 写本

十卷

同上

列中ハ第一條より第二十條まで河をせりいねハ第二十一條より
五十條までと載りり巻末より五十一條より五十七條まで
銀河奉りり〇按ずる涼山友人風月集フウゲツシュに就く金聖キンセイ二藝ニゲイ評
すふれ七十回の水滸スイコ付ツるはくしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いねのうゝ同ハ古きものなりあつてをく今やれりいね

此作も朱鳥ハ未^{シエテ}成^{ナリヒナ}未^ナなりゆけ奥書のごとく我々も申すべし
ふらふらとくくや又二か上下二冊増やしてその趣は清原氏の意に
なり發端より一紙にハよのつこのやうにして似く其次花は
おもしろく人々笑^{ユツ}かたり又法が仰言物なり物は一筋もよくは
なけやも先達のよいなすところの奥書なりんふらふらとく
愚翁老翁つぎの奥書の中れやむと増す人のよいなす
一冊は松達十載集おち今侯古今も兼集等う今一冊の
仰言の物に書すても皆中の中をえり其外順花はの夢
おのや法おのや法が仰て記しりてえりさすなりんふらふらとく
又基俊の悦目なり香炉^{カボロ}峯^{ミネ}のちのゆけり兼好はゆつてきま
ふれり基^キ芳^{ヨシ}のゆけりゆけりゆけり低のけや法おのや
一冊の季吟又四或中よけり低の白のは左中のさす
のうとく一冊里おのやゆけりゆけりゆけりゆけりゆけり
おののハゆけりゆけりゆけりゆけりゆけりゆけりゆけり

[illegible]

いふなりふれふまはる景舎の所ゆはるるふふれ
とて詩句よふはるるふふるふふま言はるのほふふ系ふふ
ふ定ふのふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
底はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
書ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
らふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

枕草子傍注

五卷

固西惟中

一回軒惟中の他
中の自筆紙以
刊切なり

清少納言枕草子抄

十五卷

はお撰者つぎ
大意 作者 題目
書よめけり
延宝二年五月刊行す

枕草子春曙抄

十二卷

北村季子吟

卷首は法か納言の傳系はま子イカガ抄イカガはす、名やの、シヤミ稱名シヤミの、
 け、如あちり、○季かえ、はる低は中古は季経の抄十冊、う、は、
 へ、わ、い、い、さ、ふ、ん、け、す、み、あ、い、は、る、低、わ、う、う、ん、今、す、し、
 あ、ま、と、食、ひ、も、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、禁中のも、は、
 西、ふ、お、ふ、お、ふ、い、は、る、低、り、け、け、さ、う、其、は、け、う、う、あ、ま、
 江、は、す、禁、秘、お、雲、圖、抄、二、条、大、内、侍、お、の、の、や、の、う、今、の、は、一
 奈、祿、園、侍、お、の、の、の、根、係、が、い、い、人、う、官、位、の、う、官、位、令、職、お、
 百、寮、訓、要、お、か、い、所、お、い、家、う、お、い、頃、和、名、集、拾、芥、お、い、歌、へ、う、
 い、祿、枕、を、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 お、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 官、考、系、圖、付、か、い、い、い、い、補、任、大、系、圖、采、花、お、い、大、鏡、作、者、お、
 等、う、く、お、う、り、い、引、秋、ハ、万、葉、ふ、古、今、の、帖、と、代、本、う、う、の、代、
 の、採、集、家、の、集、等、は、勘、入、神、社、ハ、日、本、紀、と、代、実、録、近、世、書、か、

枕草子裝束抄

一卷

壺井義知

此書卷首に清少納言枕草紙衣束攝要抄とありて、目錄ハ

櫻の直衣ちしえのすけりト数かずお石細長ホのす
二藍ふたあいのすけり香かのすけり

卯花の衣は、附柳の衣のす
二三位の袍たうあり、丸きくちほく

六位藏人より伯耆白^{フナ}嶽^{ミナ}山^{ミナ}村^{ミナ}と奥^{フナ}族^{ミナ}の号^{ミナ}ス其^{フナ}族^{ミナ}は^{ミナ}の市^{ミナ}袍^{ミナ}の

蒲萄^{ブドウ}深^{フカ}のす
あひ^{アヒ}ひ^ヒむす^{ムス}ぶす^{ブス}
皆^{みな}縁^縁火^火のす
い^いは^はら^らのす

肩の力もくば
 古今冠がも
 細長汗衫の衣

大にぞうな指貫サシスネのゆ
とこぞはゆ
革帯カビのゆ 階布袴カハフあこめ

雪のは半靴とくく
裾帯領巾の
けーふの

已上男女の装束より諸之引て候一頃のハ義和今案より

卷末の享保十四年四月内人多田義俊が字の改行を

刊^{ハツ}近來春曙抄之所^{トコロ}也^{ナリ}

ほうくた子
一卷
明恵上人

一名空化論。ソウゴウゴハルメニ去比都暮て油々々々

れより外上人をうけむるに心を暮らさずけき被せ人のよと

徒然草

二卷

兼好法師

和書部

徒然草抄

二

立安法印

けふ、ふれはけふ附くめ、す一名者今附といふ者今

院ハ主安はまのしハ書中院也^{ヤク}之軒の奥ちらふ

野 槌

十三卷

林道春

古今流の記帳多く引かひくられふは和厚の故も^{カホ}後考へやト
部の系圖^{ケイツ}なるやう又是如のうゝ風雅集^{フウヤ}以はの採集^{サイシツ}なり
その初めけうや令剛^{コウガウ}と味^ミは種母のうゝものせり^{セリ}其^{コナ}字^ナは假字^{カナ}の
自序^ジ後^リり○序^リら神代^{カミヨ}は名^ナれはの松野槌^{マツノヅチ}もつてゐる
つゞくやうく^ウのつら^ラも^モな^ナれ^レく^ク○按ず^ハる^ル日本紀神代^ニ卷^ニ生
草^{クサ}祖^ソ草^{クサ}野^ノ槌^{ヅチ}亦^モ名^ナ野^ノ槌^{ヅチ}○此書上卷八冊下卷六冊合本十
三冊^ニ

鉄 槌

四卷

青木宗胡

これハや槌^{ヅチ}の中^{ナカ}よりめきあ^アく^ク見^ミやす^スし^シめ^メん^ンが^ガあ^アる^ル代^{トキ}際^{サカイ}も^モ
か^カら^ラら^ラる^ル本^{ホン}も^モの^ノ上^{ウエ}本^{ホン}末^{マタ}下^{シタ}本^{ホン}末^{マタ}も^モて^テ寛文十二^{カンブンニジュニ}の^ノ四^シ月^{ゲツ}
上^{ウエ}本^{ホン}す

鉄 槌 増 補

六卷

山岡元隣

一名盤齋抄といふ前々此抄の役は多く佛書等の語釈引くこと
儒書歌書のゆゑも撰なりといひて上巻一より八巻まで下巻一より五
巻まで都合十三巻いふ巻首よりト部系圖 兼好傳記 時代
題号 大略 等のゆゑのせり寛文元年六月盤齋の白序を

徒然草句解

七卷

高階楊順

此書の趣意を諸抄家よりいふも誤謬なるべしゆゑ定
ましく今舊註のなすれはぬを發明のしりしに成るる句讀
の下ははみおと下りく童觀に便すといふ寛文五の七月上末

徒然草文段抄

八卷

北村季吟

此書ハ本々今院おけりり野篁は老へて自ら撰すといふこと
いふこと一箇何れもつゝのり章段ハ貞治の頃よりせりこ
百四十四段いふより又これ一段の中より段所よりいふハ
二節ありいふは即ちあることハ四つに之達の記述よりいふ
季吟いふことハ今もきやくこれ何れもたゞのり中よりいふ

明らめりぬぬのえやすらんあかりすれそら
い所のふくあゆ
くけて寛文七年十二月と年す

徒然草^な諺^な解^な

五卷

南部宗壽

古来の諸注の意切よりあせく俗耳に通じやすきやうと
ともふくすかふけくう首書おふくくはくものく尾陽
はく春流序に延文五年刻す

徒然草大全

十三卷

高田宗賢

此書細川幽斎の筆記にのりくう素合の野植貞忠
惣て盤糸村句解諸家圖書諺解文段抄鉄壁増補等と
川舟のくくく上巻七下巻六が合くすといふ
宝五九月上木す

徒然草新注

四卷

清水春流

此書此草子のあふくくく古来の諸注よりあふく
文句河あけく自己一分の了知はくくはく

徒然草ササリ參考

八卷

淨福寺惠空

此書ハ古今抄野追 佚追 慰系 長次九抄 金指 古今抄
盤斎抄 句解 文段抄 佚雅増補 諸家聞書 新注 諺解 提個
大全等十餘家の諸注抄に事ひて一説にこれ中にあるが
り 畧せしむるありしなり 和漢の故事や語の昔のありき
ものもあつてゐる 参考八卷なり 終外隠士陶
名を跋するなり 卷首は或同凡例といふ書の例 和語の解
はふみれ傍に漢字の引ふハからしむるなり

徒然草直解

十卷

国西惟中

一名清談抄といふはちのむに 傍に漢字あり 卷首は
附註凡例 卷末は 卷末のなかへて 百九十八人の侍系并
書中にある名前の図あり 自ら序なり 梅林老人福住
道祐の真字序は 自序なり

徒然草諸抄大成

二十卷

浅香山井

明らめくおめえやすくあかうすれをうけおのろふおゆ
くはくは寛文七年十二月と年す

徒然草在諺解力

五卷

南部宗壽

古来の諸注の意何より明かせる俗耳に通じやすきやうにと
をしふしうすなふけしうしう首書およりおきしうしうもの尾陽
はる春流序にりてあらわの刻す

徒然草大全

十三卷

高田宗賢

此書細川幽斎の筆記抄なり。素令沈黙野植貞徳
惣より盤鉢抄句解諸家圖書諺解文段抄鉄槌増補等と
川州心より考へり上巻七本下巻六本合々十三といふ事也
宝五年九月上本す

徒然草新注

四卷

清水春流

け書曰ハ此る子の平又阿るがうく古来の諸折ふあふふふふの
 文句阿あけく自己一分の了然阿いりて秘する

徒然草 參考

八卷

淨福寺惠空

此書ハ、古今抄、野抄、徒然、慰老、長政九抄、金指、古今抄、盤斎抄、句解、文段抄、徒然増補、諸家圖書、新注、諺解、提個、大全等十餘家の諸注、何れも、一読、く、く、れ、中、は、あ、げ、く、は、
く、累、せ、く、は、ア、リ、く、く、く、和漢の故事や語の昔のあ、り、と、
く、れ、も、は、く、く、く、く、く、く、参考八卷、く、く、く、く、外、隠、士、陶、
怨、く、跋、く、く、く、く、く、く、或、同、凡、例、く、く、く、く、書、の、例、く、く、く、和、語、の、解、
ハ、く、く、く、く、く、く、漢、字、の、引、く、く、ハ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

徒然草直解

十卷

国西惟中

一名清談抄、く、
附、言、凡、例、 卷、末、く、
書、中、く、
道、祐、の、真、字、序、は、く、
徒、然、草、諸、抄、大、成、 二十卷

徒然草諸抄大成

二十卷

浅香山氏

草繪抄といふ作者つゞいふ

寂寞草母貞吉

五卷

かゝり間一三のの初稿よりいへば解き易き
めりや片假字より評論附す作者つゞいふ序跋の
まづ共々名にけり

はまのの讃

八卷

東華坊支考

巻首は兼母の事跡園大層第七巻より第七十二巻までの同散五
すゝの初稿よりいへば解き易き
宝永八年上本す

徒然草奥儀抄

六卷

高屋近文

舊名徒然草明行稿といふ本文五巻より首巻附す
す巻首は徒然草兼母が編する一巻の書よりいへば解き易き
倭よりいへば編みし
近丈曰一部の體儒釋道に納けり解き易き
良玉集園大層等よりいへば解き易き
近丈曰一部の體儒釋道に納けり解き易き

内言が花よりかきこゝろて兼好歌人のこととほもふび
わく名でしものせれをこゝろへ似しひし人ハ賞すまたこ
べー儒釋通にわくハいこゝろにれはるるなり儒の掟より
へるハ付く人々釋教もまた小乗方便の法より凡愚なるもの
なり老莊のしるし書ありぬと彼書のおもひはわが法を以
てあるやのし渠が文盲といハ句讀もおぼつかりこゝろおれり
く儒にやうく且神祇祠官の家よりせむかゝ神通にわく九
牛一毛もさうあるものなりすされも廣く人々よりあいら
しく先人のいふと家ハ不相應なり大カも面目にあらむ
のんれ鉢をすべき書といはれしうぐやすくね人の心をし
るべー蓋し善言を語るもあがらぬ道理にわけぬものなり
しるるやうなりあふるは古語本書がしるしハ九庸乃
小補もなるべし條ハいふよりいふなり○又微塵夜話ハ
附するものなりけりすゞく兼好と強ず後々の世書よりさす

とうれゴト如く兼好リツキョウなる一アヤカシ部の趣シユイをサカはかりしめし○
 漢字カンジの自序リツキョウを致アヤカシ向願言明汗アヤカシ以シテ記レ之ノ語ヲり明汗稿アヤカシの名ナを
 此コノよりシテ下カり正徳六年三月里墨江祝部田中光世の假字序同年
 四月海南雲山人漢字カンジの跋ハツりし

徒然草片上秘事

一卷

發端の付 是等の傳 之箇より 兼好も淡 芳野拾遺 兼好迄織
山見まゝ 兼好卒所 國大曆 くれしめり 兼好も 右徒然草
玉秘事ハ徒然奥儀抄の附録 平住専菴先生家藏のや
かりきり言子保二ふと本す

徒然要草

七卷

獸求上人

けまふ一修しれに解るはりしぞ佛音祖意の園を係るふ松
 掲てさし示すし序ふるをさしふらけまふのやれふ就教
 誠に用ひしものこそ果好の趣意ふたたびのくしりしづきのの
 べー大のときと大の依の音の序なり

あつてはめうやけちちやと年八月中旬は洛中へおゐつた所
きくされちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
ふふとふきのおちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち

舞の本

二十六卷

中車翁の語ちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち
きくたのちやとてけしひらききく○按ずるは二十と帳のち

日記類

紫式部日記 写本

二卷

紫式部

此日記ハ紫式部オシト夫左衛門ササキ佐宣サカキ孝タカをシめルやモ是役タテマツの比ハの他タえニ
えニ上東門カミ下のサカ名ナのナもモ所堂シヨウ関白クワンハク道長ミチナガ公キミのノけケせセしシ
をシほホくクもモしシりリくクのノめメのノ跡アトをシめルやモ是役タテマツの比ハの他タえニ
名ナ知チりリしシるル日ヒ記キはハ忍ニりリしシるル写シ字ジはハ契沖セウチウの校ガクにニあアるル
ふフ朱シュ印インのノ墨スミをシてテ文字モンジ假カ字サナなナにニ改カめメしシるル○此日記扶
業拾葉ヤセヒツもモ收ホウめメしシるル又マタ安房ヤサノ公キミ章シヤウ日ヒ記キもモしシるル○此日記扶
一部の奥意オカシをシ考カウへヘ式部の才徳を賞アウせセしシるル紫式ムラサキシキ女メ七論シチロンをシえエ
しシるル

紫式部日記傍註

二卷

壺井義知

中ナカふフけケしシるル真字マキジ假字カサナのノけケせセしシるル義知タカチのノけケせセしシるル○此日記扶
考證カウシヤウのノけケせセしシるル義知タカチのノけケせセしシるル○此日記扶

至る廿一箇年の間の日記カ、○ハ日記刊布やも、付箋の所
やうなものをきゝものゝ脱文衍字ナク考へて、
――安沖の校を重校す――校正のものなり。

わけり
日
記
解
環

二十七卷十八本

振徵仲文甫

[illegible]

く語^ゴマ^マる^ルに^ニか^カれ^レし^シ假^カ名^ナは^ハし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
よ^ヨう^ウに^ニめ^メれ^レた^タ假^カ名^ナは^ハし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
外の術^{チカテ}は^ハし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
め^メる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
か^カー^ト契^カ沖^{チウ}の校^{カウ}け^ケる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
ふ^フく^クハ^ハや^ヤあ^アと^トわ^ワる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
の^ノん^ンは^ハも^モと^トし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
道^{ダウ}個^コハ^ハ實^シは^ハ兼^{ケン}家^カ公^{コウ}に^ニ次^ジ男^{ナウ}に^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
訛^シの^ノや^ヤか^カの^ノや^ヤい^イの^ノや^ヤ此^{コノ}抄^{セウ}に^ニう^ウれ^レる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
づ^ヅも^モ大^{ダイ}鑑^{カン}栄^{エイ}花^カお^オ語^ゴ等^{トウ}符^フ合^{カウ}は^ハし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
る^ル道^{ダウ}個^コハ^ハ位^イ署^{シヨ}の^ノや^ヤ女^メ君^{キミ}の^ノ詠^{エイ}歌^カ新^{シン}撰^{セン}の^ノや^ヤ以上^{イシヨウ}凡^{フツ}例^{レイ}上^{ジョウ}
原^{ゲン}遇^ユ漢^{カン}文^{ブン}年^{ネン}立^リ氏^シ氏^シの^ノ年^{ネン}立^リは^ハし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
ふ^フく^クハ^ハや^ヤあ^アと^トわ^ワる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
以上^{イシヨウ}凡^{フツ}例^{レイ}下^ゲの^ノや^ヤお^オの^ノや^ヤ中^{チュウ}に^ニし^シる^ルに^ニさ^サし^シる^ルに^ニた^タと^ト同^トぜ^ゼる^ルの^ノや^ヤ
道^{ダウ}個^コハ^ハ年^{ネン}齡^{レイ}に^ニ附^{ツク}す^ルの^ノや^ヤ

年号ハ天曆、天德、應和、康保、安和、天禄、大延等ナリ。○其日
記下卷ハ末ニ「年乃モツカレド夜ノヤリツケテ」云々、○其日
記ハ大尾カウ安冲ノ云々、○其日記ハ「人ノツキ」云々、○其日
記ハ「附録」云々、○其日記ハ「卷末」云々、○其日記ハ「卷首」云々、○其日
記ハ「阿波」云々、○其日記ハ「今城」云々、○其日記ハ「世間」云々、○其日
記ハ「序」云々、○其日記ハ「自序」云々、○其日記ハ「大の五」云々、○其日記ハ「ふ月」云々、○其日記ハ「とホス」

辨内侍日記写本

二卷

辨内侍

一、中々、後深草院、内侍、家集、一、上卷ハ、院ノ寛文、四
年、正月、廿九日、一、の、書、一、め、同
五、月、一、日、宝治、二年、同、年、建長、一、の、九月、一、日、の、を
あ、や、う、下卷ハ、同、年、十一月、一、日、同、年、同、四月、一、日、十月、一、日、の、を

と、や、う、下卷ノ末、損、多、一、脱、文、ハ、一、奥、書、曰、云、此、集

後深草院、辨内侍、歌、多、見、之、仍、号、被、集、此、辨内侍者、閑院、冬、

嗣公、一、男、中納言、長良、卿、之、末、葉、中、務、大輔、信實、息、女、也、

讚岐典侍日記写本

二卷

讚岐典侍

ちあつていもやすく外よりえかなかりうれ
 うの時いぞれよりいうにちもさうもあま二輛
 ちあつていもやすく外よりえかなかりうれ
 うの時いぞれよりいうにちもさうもあま二輛

方丈記諺解

二卷

他者つぎにうたはもとのやうなハチムキ、一
二の元禄七年刊行す

方丈記

一卷

山岡元隣

中々時趣^{シゴイ}意^イ欲^{セツ}諸重^{シヨウ}河川^{カヘン}く^ク如^ニら^ニ出^デ、
 後々^{コゴ}の^ノ水^{ミヅ}々々^{セツ}の^ノ信^{シン}巧^{コウ}足^ミ

方丈記
泗說

二卷

加藤盤齋

卷首は歌号^{カクイ}カ〜いゝ他^{カクイ}のめをうやみ^{カクイ}のねに^{カクイ}あ〜いゝやふ
図^{カクイ}知^{カクイ}りゝとせり卷末のうね長のの他^{カクイ}〜いゝね^{カクイ}も〜いゝ明^{カクイ}番^{カクイ}で

正月刊布す

方丈記流水抄

二卷 一本

模島昭武

卷首之標題之

長明の履歷

方丈のほ

長明著述の書曰真偽

同四年甲子ニケシ 酬恩シウオン 序みけり 同五年ニケシ 興津キツ 入り 同六年ニケシ 懸川ケツ 入り
今イマ 同三月ニケシ 入りの日ニケシ 作し 中ナカ 又マタ 統祐トウユ 約ヨク 書をシテ 作ス 歌カ 道遠ミチトウ 依ヨ 序シ 文モン
のりノリ 老オウ のりノリ 入りニケシ 入りニケシ 入りニケシ 入りニケシ

宗長九ニケシ 記キ 写本

一卷

同上

大永六ニケシ 同五月ニケシ 同七年ニケシ 十二月ニケシ までの記キ 今イマ の宗長ソウチャウ ハナシ
なりナリ の時トキ 記キ をシテ 九ク 号ガク するス 人ヒト ハナシニケシ 中ナカ の時トキ 入りニケシ 作ス 序シ 文モン
作ス 序シ 文モン

和文類

扶桑ホウサウ松葉集エノハ

三十卷 二十五本

西山公御撰 古今の和文之百十三篇（百十三篇）御載せられたり扶桑

拾葉集シウエツよりハ後西院の勅（タテマツル）詔なり 卷首（マタヘ）に仁

親王の序（シ）あり是より 西山公此書（コノカキ）ハ 太上天皇（ミコトマサ）に進められた

る表（ヒラカ）り別（ヘカ）又系圖（ケイジ）一卷（イツパン）御著（ミカキ）の作者の家系（ケイ）は

こせられたり

卷第一

古萬葉集序 嵯峨天皇

後拾遺和歌集序 花原進後

新古今和歌集序 花原良経

續古今和歌集序 花原基家

新葉和歌集序 宗良親王

古今和歌集序 紀世良之

千載和歌集序 藤原後成

新勅撰和歌集序 藤原定家

風雅和歌集序 花園天皇

新後拾遺和歌集序 花原基家

新續古今和歌集序 乃永藤良

卷第二

家の集の内

日

土佐日記

紀貫之

大井川行幸和歌序

日

卷第三

遠江道記

日

庚申夜春和歌序

源順

又

天祿歌合序

保為憲

行幸高陽院應制和歌序

善為政

又

枕草紙跋

清少納言

卷第四

亭子院歌合日記

家の集の内

蟻通の神ノミ和歌序

熊野記行

子日行幸和歌序

家の集の内

又

日跋

家の集の内

焦詔和歌序

紫式部日記

紫式部

釋贈基

半井盛

曾根好志

日

日

加茂保憲女

橘正通

卷第五

和泉式部日記

和泉式部

卷第六

家代集の内

相模

家集の序

大寺元補親

家集の内

友系定親

さしりの記

世官系孝操女

終世松遠序

源次信

卷第七

てな抄序

源俊光

九月十二夜於前武情泉亭詠和歌序

日

悦目抄序

友系基俊

傳序

日

大いみ序

友系為業

後葉和歌集序

友系為政

奥儀抄序

友系清勝

水いみ序

友系忠親

撰集抄序

釋西行

從家了齋久

日

卷第八

巖島所幸の道の記

保通親

高倉天皇升遐の記

日

卷第九

古来風作抄序

友系俊成

日後序

日

山治奏狀

日

伊勢歌合序 イセカサマ

五社百首序

日吉七社歌合序 ヒコカサマ

日跋

住吉歌合跋

民部卿家歌合跋

家の集乃内

安元序賀の記 安元隆房

艶詞 エンカ

有京大夫

卷第十

蒙求和歌序 モウモウ

源光行

俊成九十賀記

源長

賀茂成大明神 カモナリ 百首和歌序

和歌色葉集序 ニヤク 歌歌照

奉納聖德院和歌序 ホウナリ

老若和歌序 ロウニヤク

早卒露膽百首跋 ハヤハツ

少納言基長 シノナリ 長柄 ナガエ 辞 ハジメ

色葉和歌集序 イロハ

百首和歌跋

土御門天皇 ツミカド 奏 ソウ 人 ヒト 若菜 ワナナ 隆 リウ

控中納言 コウナリ 定家 サダメ 下 カミ 縣 ノリ 人 ヒト

發心集序

明長 アカナガ

堂玉集序

方丈記

卷第十一

遠島御歌合序

多よりれ序

宮阿歌合跋

長細百首の序

人々序

長歌合序

古今著聞集跋

卷第十二

十六夜の記

野山序

源有房

千五百番歌合勅判序

新古今和歌集跋

家隆序

和歌初心抄序

東関記行

七十番歌合跋

室治歌合跋

了り

竹大納言の家

隣女集序

源氏論義序

源氏論義序

同跋

卷第十三

石清水所^{カクニシヨ}歌

日休又春

所^{カクニシヨ}歌^{カクニシヨ}集跋

日

李花集^{リカ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}

宗良歌

又

又

千首和歌序

日

卷第十四上

あひけすの日記

日

筑波向答序

日

卷第十四下

雲井抄^{クモイノサテ}序

日

都のつゝ跋

日

中勢内侍日記

中勢

賀茂社所^{カモノヤ}歌

日

名和長年^{ナニワナガトシ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}

初書^{ハツカキ} 飛松^{トビマツ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}

又

又

又

佐々木^{ササキ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}で

辰義^{タケノリ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}

年中行事歌合序

友永良基

嵯峨野物語序

日

小島の口^{コノミ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}

日

神業^{カミギヤ}日記

日

愚問賢答序

日

雲井の花

日

白鷹記

口口

人々りしつ句

卷第十五

富野日記

口口

都のつし

秋宗久

書物序

口口

道心さぶる

卷第十六

伊勢大神宮参詣記

坂士佛

卷第十七

北山行幸記

口口

卷第十八

仙源抄跋

口口

りさの序

さよの補子見

口口

筑波集序

愚問賢答跋

秋村阿

鼓骨の繪の賛

秋村阿

言塵

書物序

秋村阿

鹿苑院准后義満公嚴島詣記

口口

河海抄序

秋村阿

源氏物語提要序

秋村阿

相國寺塔供養記

秋村阿

七百番歌合序

秋村阿

雨聖記

口口

鹿苑院准后義満公御時序

秋村阿

後小松天皇升遐の記

卷第十九

卷第二十

春宮入賜しせむし

世鏡抄跋

文明歌合序

三源一覽序

魚山の詩法

卷第二十一

文安詩歌合序

年終の序

南都百首序

草根集序

歌林良材集序

富士記行

椿葉記

富士記行

山々の記

和歌入序

慈照院准后義政公自歌合跋

五月雨記序

嘉吉二年歌合序

雲井の春

花鳥餘情序

花鳥餘情序

古河の記

古今童蒙抄序

祢々々の記序

秋重方

秋重方

友永雅世

貞常親王

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

友永雅世

勸修念佛記序

口口

竹林抄序

口

卷第二十二

法乃ひーろ

口

山のふみ

友永雅康

卷第二十三

答垂槐実隆コケノハシクイ詠月エイグハツ和歌序

口

いの草の記跋

口

すすのめ序

友永冬良

夢菴ムササギ記

秋月栢

雪ユキ外ホウ要ヨウ寺ジにアツねネ了リョウ辞ジ

多く良美典

卷第二十四

詠月エイグハツ和歌序

口

細川右京大夫自歌合跋

口

仙洞歌合跋

口

世諺問答序

口

なりさる草

秋心微

寄花述懷和序スニ序

口

関東海道記

口

あゝアハハ〇ニ日ニチ記

友永基備

答垂槐実隆コケノハシクイ慰イタナヒ予ヨリ失妻ウツサマ和歌序ニ

口

世鏡抄序

友永公友

新百人一首跋

秋道真

三愛記

口

雲井クモイ序法跋

口

勸コケノハシクイ了リョウ了リョウよくヨク發ハツ句ク指サシきキ記

友永三隆

入イリ堅ツル生ナマ少コ自ヨリ奇キ合カ跋

口

中原遠忠自歌合跋

口

慰參議全綱卿失妻餘哀和歌序

きぬのりき日記跋

住吉記行

卷第二十五

世諺問答跋

七十賀和歌序

高野山參詣記

氏花堂記行

卷第二十六

妻初のめ和歌序

百首和歌序

清見の記

長源院とてめ辞

雅春卿初のめ辞

名香合跋

答資直卿和哥序

快祐法印七回忌和哥序

秘抄序

之塔順禮記

石山月見記

永祿歌合跋

桂林集序

心珠詠藻序

称名院右府七十賀記

嗟職記

昌叱とてめ和歌序

昌叱とてめ和歌序

昌叱とてめ和歌序

昌叱とてめ和歌序

光源院贈左府追善三十一字和歌序

卷後

からしとてこれ松の記もわはれ玉

關疑抄跋

九州道の記

原友孝

夢想記

口

卷第二十七

岷江入楚序

係通務

けしきうく

贈左大臣義晴公と悼つ辞

友系あふ

贈太政大臣信長公悼つ辞

太陽院悼つめ辞

口 友系甫

かやぐさ

夕顔巻辞

口

代賀豊州挽辞

口

又

恕仙法郎と悼つ辞

口

陽光院三十三回忌追善の辞

無多法親王

北陽成天皇升遐の記

平時康

式部卿智仁親王悼つ和歌序

好仁親王

卷第二十八

北陽成天皇御悼つ辞

口

日光山記序

口

友系光廣

春の曙

口

式部フ親王ハ御ハ持ハりハ和歌序口

花見の記口

医ハのハ淨ハのハいたハのハ辞口

三島明神ハ法華ハのハ和歌序口

浅間の記口

萬里江山ハ石ハのハ記口

あぐねハ跋口

目ハさハるハ跋口

百椿ハ圖序口

ねもね天皇ハ四百年ハ所ハ志ハ所ハ廟ハ泰ハ請ハ記口

友永氏成

ね陽成天皇ハ御ハ持ハりハ辞口

式部フ親王ハ御ハ持ハりハ和歌序口

良忍注親王

同

友永氏成

卷第二十九上

朝ハけ口

東山ハ家記口

豊臣信俊

さかごハみ口

西山ハ家記口

大井川ハ道遥ハ記口

春の山ハふみ口

卷第二十九中

五妻ハのハ道ハのハ記口

九州ハのハ乃ハ記口

春山ハのハすハるハでハ辞口

ちがめハあつハまハいハきハけハ道ハのハ記口

花山のあそび

妙善院のあそび

松平越中のあそび

道春法印のあそび

妙善院餞別

永喜法印餞別

卷第二十九下

道系餞別

祖母のあそび

玄旨法印のあそび

林叔勝のあそび

さきのあそび

かゝのあそび

卷第三十

めすくまのあそび

稻葉内匠のあそび

那波道長のあそび

佐川田の何のあそび

春日のあそび

心意法橋餞別

ね陽成院崩のあそび

妙善院のあそび

稻葉丹のあそび

さきのあそび

きりのあそび

辞世

女狐のあそび

肥後、少の河、あ、辞、有、ふ、る、ま

惺富文集序

於、長、嘯、亭、催、花、宴、和、歌、序

奉納菅廟詩歌序

報、源、光、一、詩、歌、序

又

九月十三夜和歌序

日光山法華八講記

仙洞御色紙記

八瀬詞

嵯峨遊覽記

成元餞別記

関東海道記

前の相づね悼、和歌序

友成、の、め、和、歌、序

宇治真聖禪寺記

扶桑拾葉別集、写本

三卷

何人の撰、り、り、相、あ、り、り、亡、友、江、田、世、恭、り、あ、み、く

上卷

圓融院、扇、合

東三條院撫子合

長元八年殿上歌合、記、作者不知

珍言集、跋

寂勝、四天王院、名所障子、和歌

風葉集、序

新濱木綿和歌集序

龜街覽記

陽祿門院卅三回忌記

中卷

大嘗會記

めしめしめし

新撰菰波集序

枕草紙跋

下卷

十訓抄序

菅原為長

紫明抄序

素寂法師

奥州後三年記序

法下玄成

同跋

釋門三十六人歌仙序

僧空海

水魚瀬殿哥合跋

寺持院八講記

北山院御入内記

春日社奉記

いふのち

續五明題和歌集序

艶詞

秋風抄序

小野春雄

かたみづの序

りりけり

新自讃序

頼阿計り

連珠合璧集序

梵灯り

善光寺紀行

法下光玄

北國紀行

芝草 同序 ふね信

奉納住吉連歌序

連歌比校集序

和希菴禪師の韻和歌序 西三奈内大氏

毛利就家集序

拾遺後葉集 写本

二十四卷 二十六本

江田世恭撰

海道記 種王薈次抄序 宗祖法

わうまの記序 江後並載

多良改張の和歌序

目録一卷附す巻首の漢字の題言 此編のりて扶桑拾遺集の

續集は擬して撰了の題言 此編のりて扶桑拾遺集の

の二科とてす菊合扇合撫子合 護岐典侍日記 傳内侍

日記後醍醐帝年中日中行事 先惠正廣宗牧宗長記行手

記等ろれ文長短 同

侍日記お採録の例かりき 又其文享保以來ハ

の二三其餘ハこれ近代延宝より上迄喜ぶる所なり七八百の

卷第一
別行

寬平菊人

東二條院
換子合

鷹司稱念院殿春秋抄

卷第二

卷第三
上

卷第三

卷第四

同日中行事

卷第九

收普光園沈氏永和大嘗今記

寬治二年歌合

圓マシ 融ユウ 院 廟 合

天德歌合假名記

道範阿圖梨南
海流浪記

讚岐典侍日記 上下

辨
內侍
日記
上

辨內侍日記

後醍醐帝假字年中行事

元德行幸記

寛正五年御遊の記

卷第六

元惠東海道記

卷第七

東素純筆れすし

卷第八

卷第九

同老のひづろ

卷第十

手記

卷第十一

清少納言松島日記

宗長宗祇終焉記

卷第十二

小坂遠州彦東海道記

北野梵燈菴主問答

教思書

明空撰要目録

姉小路基綱の若草

日比正房日記

宗牧東園紀行

宗長九郎記

宗長菰紫記

鰯書

定家

澤菴和尚鎌倉紀行

紹巴富士紀行

卷第十三

卷第十四

卷第十五

實條公閑東下向記

同訪山家友記

安見業卿高雄記

同 嵯峨記

卷第十六 單錄上

大中臣能宣家集自序

顯季卿俊賴朝臣贈答文

通方卿續古事談跋

御堂衣濯川集序 作者可考

源氏物語供養表白

素寂紫明抄序

元政上人身延道記 上下

似雲奧州紀行 上下

宋雅越前下向記

雅章卿芳野記

實種卿御庭拜見記

為村卿柿本景供記

士生忠岑太井川行幸序

賴朝卿子範賴文

清輔朝臣尚書會記

家長朝臣新古今跋

風葉集序

鷹司圓光院殿續後撰上帖序

玄玉抄序 作者可考

如大尼假名法語

傾阿十樂菴記

摘葉集跋口上

薰物方書序作者可考

源氏千鳥抄跋

救濟連歌抄跋

撮鳴曉筆序

景房多宝塔建立勸進狀

卷芽十七單錄中

逍遙院前内府各妙華寺殿下歌序

同八景和歌序

宗祇百人一首抄跋

同悼宗椿歌序

逍遙院殿源氏系圖跋

送珂憶上人序

仁和寺競馬記作者可考

茂範卿唐鏡序

職人盡歌合序

心敬僧都連歌抄跋

榮海僧心釋門歌仙序

住吉社司夢想註進狀

新筑波集序

下冷泉持為卿百首跋

夢菴長正百首跋

称名院石府各冷泉黃門歌序

宗鑑老の春

宗祇自贊歌註跋

大江元就集跋

道澄准后島津入道百首跋

遊行他河上人弄花抄跋

道見法親王家集の内

同里亭寄田座序

長松軒惟翁千年山八境記

後十輪院前内府御製十三首跋

卷茅十八 單錄下

風早公長卿名香記

実業卿与青木水外歌序

烏丸光雄卿論事香燭記

溪雲院前内府硯銘

同長柄橋柱文其至記

義尚公多田院奉納和歌序

東求院殿下近江八景歌序

信長公賜布施懸九郎書

後西院御製書硯記

烏丸資房愛卿泉涌寺御法事記

西山公題朴羽詩

道見法親王女院御色紙跋

清水谷実業卿牡丹花序

有栖川幸仁親王贈水外歌序

公長卿同

日野弘資卿硯銘

同橋立香燭記

同芦田鶴笛記

同瀧浪筆策記

東久世傳高卿同

重季卿高雄山記

風早實積卿同

同千歲藤記

同夏衣和香木記

同与津田氏女辭

同弘川古墳種花記

柳原光細細含雪盆石記

同種香箱銘

同八瀬里記

同与山出信濃守詞

不時心院前内府東行記

光榮公宗祇水記

冷泉為網卿織物手鑑序

中院前右府曾根松記

油小路隆負卿清和院備忘十賀歌序

同長柄橋柱文書記

同布留鳥居碑相記

同葛城百首跋

同似雲窓の曙跋

石山師香卿茶抄記

實隴公雪嶺盆山記

同修字寺行書記

同興福寺再建勸化疏

良恕法親王の道あふ

木葉集跋 作者未知

同碧梧亭記

同示松井失辞

同長柄橋柱碑蓋記

九余殿下白峯奉納歌序

卷第十九 補選

晚華集序 僧契冲

住吉社奉納の奥書

柿中の神歌

八月十五夜名月和歌序

壬子詩筆の詞 室直法

卷第二十

よしの花々

橙子香合記

むらけ早々せ

卷第二十一

同西蓮追善歌序

鳥丸光胤御贈字佐大宮司歌序

同月輪殿追善歌序

露露草紙 作者不詳

林葉果塵集序 下河邊長流

橘正成傳贊

野田菰の記

東武再往日記

閑谷集序 作者不知

東紀行 慈心章

賀六十和歌序 今井似示

四十賀記

閑東下向記 小堀政一

丙辰紀行

林道春

卷第二十二

奉納百首跋

口

漫吟集序

下河辺長統

得梅移植時謝本主詞

口

詠紅葉交松和歌序

口

人丸開眼初人のねり

口

賀婚姻詞

口

惠心僧都園画記

口

代通記序

口

片園の森

成島信盛

三宅良親興行和歌序

口

奉祇園社百首跋

口

盆石記

口

答富島利真公羽文

伊友長胤

萬水一露序

松永貞徳

奉悼妙來院辭

口

詠慶賀百廿首序

傳英冲

贈浅小井氏詞

口

詠昇仙石和歌并序

口

吊喪立因子詞

口

源註拾遺序

口

餘材抄序

口

詠廿日月和歌并序

冬月長春

与念悦法師詞

口

退居久安寺詞

平間長春

吊母喪詞

口

住吉奉納千首和歌序

有賀長伯

夕日山記

口

川井法喬和歌序

利間宗名

関西五十回追福和歌序

口

賀西山氏六十訓

口

玉津鳥紀行

川井玄節

公羽の文序

川井玄牧

懷元亮和歌并序

口

桂山集自序

口

卷第二十三

春

成島信通

高野山紀行

奥野保悟

田原雜記序

法孫杜美

書

西山宗因

東の紀行

口

有馬西吟五百句序

西順

假名文字書樣大意序

渡邊重平

追悼百韻序

關西惟中

東野州聞書序

佐者不知

一字御抄序

口

光源氏一部哥讀序

口

愚問賢注六窓抄跋

口

假名句題和歌抄序例

睡翁

百人一首改觀抄序

樋口宗武

風塵記

上中下

平岡長雅

新古今和歌集增抄跋

加藤繁

卷第二十四

日光山供奉私記 上下 源和寓

自替ジカヘ哥カ序 同上

又

奉ホウ言ゴン法ホフ印イン文 ね永夏

文フミのノ樂ガク 七卷 八本

文フミのノ樂ガク 七卷 八本

文フミのノ樂ガク

孫マコ者ノのノらノ知チりノもノすス新シン者ノをヲ名ナづク陀タ佛ハツ序ノをヲ末マツ

安ヤス永ナガ丁テイ酉ユ十ジュウ一イチ月ゲツ有アル忠チュウ貞テイ漢カン字ジのノ跋ハツはハ扶フ東トウ拾シツ葉エフ集シツのノ

中ナカ其ノ餘ノのノ文フミ章シヤウ教キョウ篇ヘンをヲのノくク文フミ體テイ河カ分ブンりリ收オウむム

卷クワン之ノ一イチ上ジョウ 歌カ集シツ序ノ

古今コキン和ワ歌カ集シツ序ノ 魚貫之

新シン古今コキン和ワ歌カ集シツ序ノ 若菜良任

父子相迎フシノアヒムケ 上下 向阿上人

宇治の川ウジノカハ 作者不承 津三國基

家集ケシツの内ノウチ

ねネぬヌ光ミツ國クニ抄セウ改カイなナむム文フミ 頼房けり

拾シツ遺イ和ワ歌カ集シツ序ノ 二葉通後

卷之一下

續古今和歌集序

右系基家

新勅撰和歌集序

右系定家

廣中夜奉和歌序

保明

大堰川行幸和歌序

右系長久

九月十三夜前武備泉亭和歌序

二

風集和歌集序

天禄歌合序

保元憲

御裳濯川歌合序

右系俊成

遠島御歌合序

右系成

卷之二 物語序

大鏡序

右系高業

水鏡序

右系忠親

增鏡序

右系冬良

愚管抄序

秋意四

十訓抄序

卷之三 歌話序

奥儀抄序

悅目抄序

右系基俊

筑波同各序

右系良基

筑波集序

口

和歌色葉集序

秋歌咏

殿上根合序

卷之四 記類

亭子院歌合記

伊勢

倭成九十賀記

保長

宗祇終焉記

宗長

卷之五 記行

熊野詣記行

秋滿基

尾張記行

赤澤

泊瀬記行

後月三日月

辛崎記行

口

石山記行

口

高野記行

秋秋

卷之六 跋類

枕草紙跋

清少納言

百首和歌跋

秋慈因

室物集跋

平康

古來風体抄跋

右左佐成

宗久旅日記跋

左末良基

卷之七 雜文

奉儀通神和哥序

化美

贈京極黃門卿文

秋西

乳冊の文
盜我木辭

可憐凡
豐凡

筑前中納言秀秋上餞別上

辭世

骸骨繪賛

秋夜月

歌文要語

己上四十六篇

安永七年正月刻

一卷

建涼代山

天地
季候キウ
人衣
食カキ
家居カキ
器
恋
旅
生類
草木

神佛の類はちち和文にちちなり

古今事記 日本紀 延喜式 古語拾遺 萬葉

葉 催馬樂 土佐日記 古今集 其餘 彩語類 いろは歌 採出 乙久

其書名河之方
明和二年十二月刻

としのついで

一卷

同上

八代素のちけろーろろね西き魚糸ろろろちくのせり

はるき長きふらぬのとき
思ふとき
モツハラ
何れに

五言古詩

後編

一卷

同上

戦ふ擬せり人なりともあけく
ニミタク ぬきよしもいふ
サト 倫せり
サト 倫せり
如く人真字の序上田秋成
の序あり

卷之三

三

記キ行カ類

士

佐
日
記

一卷

紀貫之

貫之上佐守ありて延長八年、依國之下、六年の辰平
五年は任せて、京へ向ふ時の記なり。此文の……
……女のかきり……日記の……
……季吟のお……上佐日記一卷……善本あり……
……蓮華王院の宝蔵より……
其……文暦二年……五月十三日……
不慮之外見、紀氏自筆之本、蓮華院宝蔵本、料紙白紙、
一尺一寸二分計、廣一尺七寸二分計、紙也。……
……有外題、上佐日記、貫之筆、其書、掾和哥、
行定、行書之、聊有闕字、哥下無闕字、而書後、
……終功、業門明靜……明靜、八定家……

府借之遂一覽 依或人教寺深切書之古代假字猶蚪斗未憲臨
写有魯魚乎後見筆窓之而已明應士子仲秋候垂槐藤原
とく妙書院々惺窩先生のゆく

土佐日記附注

一卷 三本

人見ト遊

卷首は紀氏の系圖官位のゆゑ奉林道春の貫之の傳と
のセ法は貫之作の新撰和歌集の序大井川行章和歌の序と
載る凡例云余適見者相つゝを以て此序校する自
序より得惺窩翁手筆之本又以別本檢其同異粗解釋之
まゝ又讀耕齋林氏の序より書のゆゑ中居宜長よりけ
るの序より日記の序よりなるものなりとせむは
いんちやくくもの附注よりつものゆゑなるものなりとく
やあやうや二川ぬらまやの季吟のおよつとく
づから川よりなるものなりとく附注よりなるものなり
かゝるはいろいろ附はねるものなりとく附は

須麻石記

一卷

ありては、
ふえ管神は、
かきすすしとすのふ

まてのなれくしほひかめく書がやゝいのち

依ちて^{シキ}つ^イり^ハて^ハや^ハひ^ハる^ハ白^ハ大^ハま^ハが^ハの^ハ名^ハを^ハと^ハり^ハて^ハす^ハ

[illegible]

公の御自様より
 子久し

[illegible]

よびに其の言ふ下を五へ

不_レ下_レ人の作_レすの_レ由_レ不_レぬ_レ也
 一_レ始_レ○伴_レ世_レ漢_レ文_レ

[illegible]

○市呂宣長ゆかりの頂上ハヤセ

あゝのーせハサハるゝもむげハるゝうかーらゝゝ
れくーづーくーくーくーくーくーくーくーくー
くーくーくーくーくーくーくーくーくーくー
くーくーくーくーくーくーくーくーくーくー
くーくーくーくーくーくーくーくーくーくー

十六夜記

一卷

阿佛尼

阿佛尼ハ安嘉門院の四條くゝなる家つゝの後妻やうなるあつ及
はる播州御門とある相つゝえんのお氏とて争論のゝゝゝゝ
相つゝの母阿佛尼訴訟のゝゝゝゝ鎌倉へ下りゝゝの記やうく
ゝゝゝゝあつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

長明道の記

一卷

此記のゝゝゝゝにほとほ八月十日くゝけと長明の鎌倉

下^{クニ}を建^{タテ}曆^{リキ}え^スく仁^ニゆ^クひ^ハら^ハ十二^ニ回^ニあ^リる卷^{クワン}末^{マツ}は
東^{アツ}鑑^{カン}に^ミく長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ事^{コト}も載^{カゼ}る^ハふ^ハし^ハく記^キは^ハ源^{ゲン}親^{シン}の^ノ
が東^{トウ}關^{カン}記^キ行^{コウ}なり^ハる^ハ人^ニあ^リやま^ハく海^{カイ}ず^ハく^ハなり^ハ也^{ナリ}

長明海道記

一卷 二本

これ^ハ長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ他^タハ^ハり^ハず^ハ國^{クニ}西^{セイ}惟^イ中^{チュウ}に^ハ鴨^{カモ}長^{チヤウ}明^{メイ}が^ノ海^{カイ}道^{ダウ}の^ノ記^キ世^セ
奉^{ホウ}と長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ他^タハ^ハり^ハず^ハ國^{クニ}西^{セイ}惟^イ中^{チュウ}に^ハ鴨^{カモ}長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ海^{カイ}道^{ダウ}の^ノ記^キ世^セ
奉^{ホウ}と長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ他^タハ^ハり^ハず^ハ國^{クニ}西^{セイ}惟^イ中^{チュウ}に^ハ鴨^{カモ}長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ海^{カイ}道^{ダウ}の^ノ記^キ世^セ
奉^{ホウ}と長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ他^タハ^ハり^ハず^ハ國^{クニ}西^{セイ}惟^イ中^{チュウ}に^ハ鴨^{カモ}長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ海^{カイ}道^{ダウ}の^ノ記^キ世^セ
奉^{ホウ}と長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ他^タハ^ハり^ハず^ハ國^{クニ}西^{セイ}惟^イ中^{チュウ}に^ハ鴨^{カモ}長^{チヤウ}明^{メイ}の^ノ海^{カイ}道^{ダウ}の^ノ記^キ世^セ

東關記行

一卷 源親行

これ^ハ快^{カイ}楽^{ラク}拾^{シツ}葉^{エツ}集^{シュウ}も^ハ收^{ウケ}り^ハも^ハく^ハ世^セに^ハ流^ル布^フす^ハる^ハの^ノ長^{チヤウ}
明^{メイ}の^ノ事^{コト}の^ノ記^キと^ハなり^ハ也^{ナリ}

藤川の記

二卷 一条禅因兼良公

一^ハ名^ナを^ハ法^{ホウ}の^ノ記^キ行^{コウ}と^ハなり^ハ兼^{ケン}良^{リョウ}公^{コウ}應^{オウ}仁^ニの^ノ乱^{ラン}内^{ナイ}避^ヒく^ハ南^{ナン}都^トに^ハ住^スす^ハる^ハの^ノ記^キ
た^ハし^ハる^ハの^ノ記^キ行^{コウ}と^ハなり^ハ兼^{ケン}良^{リョウ}公^{コウ}應^{オウ}仁^ニの^ノ乱^{ラン}内^{ナイ}避^ヒく^ハ南^{ナン}都^トに^ハ住^スす^ハる^ハの^ノ記^キ

宗長西國紀行

写本

一卷

宗長法印文明十二年周防の山口へ下る所の記なり一か葉紫

名の記行と標ヤウの此記行は宗祇の記とすハ誤なり

廻國雜記

一卷

准后道真親王

一名宗祇田國記と号し印本五卷より法源社まの序

文と附すのより語並にこれに准后道真の市化なりと云

考へて

心廣日記

写本

一卷

心廣ハ徹書記の弟子なり日記を文明五年駿河より

叶の所のにかり

時

抄

写本

一卷

普光院義教公言士は流の記のよりけし供奉ヤ今川範

政の孫今川上院介義忠の家よりハ心廣法印写

しと云く序はよりけしと云く名づけし

身延記行

二卷

深草元政

元政より八十餘歳の母河原の身延山へ参りて其の
乃の記をいふ事ありて其の殊にわづらひしものなり

鎌倉君記行

一卷

澤菴和尚

鎌倉遠行のときと歴代の名遷り感一專五山の衰廢

温泉遊草

深草元政

温泉の記其外詩文和歌と

春の曙

一卷

烏丸光廣卿

寛永乙亥のころ二月に花その曙と名づけしものなり
記のころめよ二月に花その曙と名づけしものなり
とて其の二条左相府春の曙と名づけしものなり

付らぬ奥より

窓の曙 写本

二卷

似雲法師

享保十五庚戌の 似雲法師の富士山のけしき
しるし 並河五一郎の志にけしきとけし伊豆の島に
見のふしとて道の記なり神すなり伊豆の島に
西嵯峨の草菴にぞくものなり伊豆の島に
けしきのしるし

くわたりてもおますりあはれあすめきのみとて
まゝもておはまゝなりとてすの千秋のうのしるし
あつめりてのけしきとてすの千秋のうのしるし

春より一身のけしきとてすの千秋のうのしるし
くわたりてもおますりあはれあすめきのみとて
まゝもておはまゝなりとてすの千秋のうのしるし

くわつちの浪の記 写本 一卷 烏丸光栄公

延享二年光孝公関东下向の道の記なり 巻首よ

何れに何れかの旗はともかくおとまりなりしそのとき

修学院御幸宸記 写本 一卷 寛元法皇

享保六年十月日七年壬子月同年九月日八年四月日

年九月日九年八月同年九月日十年四月 同年九月日

十月日十一年四月以上十一箇度修学院の別荘御幸の記と

す

道ゆきふと 写本 一卷 賀茂真淵

大洲の故の遠物傍ねはけ反のふの記なり 巻首

西帰と標して京より遠かへけの記なりを附すけに

いんすの古記多し引くと考へるなり

菅竺三日記 二巻 本居宣長

明和九年のとき宣長吉野花火の記なりこれなり

す

東
通
記
行

一卷

長赤水

水戸の長赤水の奥の北の記は、
 標記あり、記中、島の名は、
 奥の北越七寺記、
 す○一書、多賀城碑、
 郡國造碑、
 二月刻す、
 林意行集、
 六卷、
 宮川一型子、
 記行の文は、東西南北より、
 和文は、
 記行の文は、東西南北より、
 和文は、

詞林イ意イ行カウ集

六卷

宮川

子

卷之一
東方

都乃?

築此宗久

卷之二

小島のスミ

二条良基公

宗祇終焉記

秋宗長

卷之三

東國陣道記

細川幽斎

東道の記

仁和寺云云

卷之四

石山記行

伏虎和尚

石山記行

西之条之條公

東山道記行

那波大木

石山詣の記

小寺堂

東行雜詩

平巖仙桂

江府記行

口

遊醍醐寺詩

卓山之海

遊神明山記

雪堂居士

膳所記行詩

菅原玄同

卷之五

西南方

自尾州熟田至藝陽廣島路行之詩

梁南和尚

藝陽道行詩

石川文山

和石州山材藝陽途中詩 林道春

遊有馬温泉記行

杉永昌三

同和韵

菱原玄同

遊有馬温泉記

李唐山玄

南州記行

菱昌琳

南行詩

那波大木

南行詩

大秀和尚

吉野花見記

加茂繁休

隱岐記行

水光陳氏成

卷之六

北方

渭北吟稿

半巖仙桂

甲辰記行

〇

丹後海陸順遊日録

和田宗光

大系記

右系大夫

大原記行

詩仙桂歌 繁休

大系歌

美川一翠子

拾遺意行集

一卷

同上

嚴島詣日記

今川了俊

南遊詩

策彦和尚

吉野詣記

西之条公條公

し己行記

平巖仙桂

今付山水記

山崎友子



明倫彙編

卷二

Author: 尾崎雅嘉 (Ozaki, Masayoshi, 1755-1827)

Title: 羣書一覽 三
(Gunsho ichiran, v.3; Review of Books, v.3)

Place: n.p.

Publisher: ?

Date: n.d.

lv.(double leaves)

Text in Japanese

V.3 of a set in 6v.



PL831
.Q99

